

文化庁 令和 2 度 日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業

キャリア教育を軸とした 中堅日本語教師研修カリキュラム開発事業報告書

令和 2 年 5 月 29 日 - 令和 3 年 3 月 19 日

学校法人神戸学園

目次

1. 事業の目的	2
2. 事業の概要	5
2-1 事業の概要	5
2-2 事業委員会の構成	7
2-3 事業日程概観	8
3. 事業内容	10
3-1 教育課程の検討	10
3-2 教材の検討・開発	23
3-3 研修の実施	35
3-4 事業全体の評価	55
4. 事業の成果	59
5. まとめ	68
資料 受講者アンケートの回答（記述式）	69

1. 事業の目的

学校法人神戸学園は、文化庁より「令和２年度日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業（日本語教師【中堅】研修）」を受託し、令和２年５月２９日から令和３年３月１９日までの期間に事業を実施した。本事業は、文化審議会国語分科会がとりまとめた「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」で示された「日本語教育人材の養成・研修の在り方及び教育内容」の円滑な普及を図るものである。

学校法人神戸学園は、文化庁より「2019年度日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業（日本語教師【中堅】研修）」を受託しており、令和元年９月４日から令和２年３月２０日までの期間で「キャリア支援・キャリア教育を軸とした中堅日本語教師研修カリキュラム開発事業」に取り組んだ。2019年度事業では、以下のような成果および課題があった。

成果

- (1) キャリア支援・キャリア教育を軸とした中堅日本語教師研修カリキュラムの開発
- (2) グループワークやディスカッション、発表など、受講者のコミュニケーション能力・問題解決能力向上を目指した教育法の採用
- (3) 日本語学習者の「キャリア」に対する受講者の視野の拡大

課題

- (1) 本事業のキーワード「キャリア」「コミュニケーション能力」「問題解決能力」の定義の明確化
- (2) 本事業のキーワード「キャリア」「コミュニケーション能力」「問題解決能力」の定義の講師間および受講者との共有
- (3) 事業評価のデータとしてのアンケート方法の改善

令和２年度事業では、上記の成果を引き継ぎつつ、課題の解決を図り、「キャリア教育能力を軸とした中堅日本語教師研修プログラム」の開発を行った。

令和2年度事業の「キャリア教育能力を軸とした中堅日本語教師研修プログラム」では、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」で示された日本語教師【中堅】に求められる専門性・資質・能力等を「キャリア教育」の観点から捉えなおし、以下のような資質・能力を有した人材の育成を目指す。

- (1) 日本語教師としての高度な専門的知識をもち、そのうえで日本語教育とキャリア教育を関連付けて考えることができる
- (2) 日本語学習者のキャリアを考慮した教育プログラムの策定や体系的な指導を行うことができる
- (3) 教育現場における問題発見解決に取り組むために必要なコミュニケーション能力および問題発見解決能力をもつ

日本社会における産業・経済構造の変化や雇用の多様化・流動化が指摘されて久しくなる。また、留学生30万人計画・在留資格特定技能の導入・新型コロナウイルス感染拡大など、近年日本語学習者をとりまく環境は大きく変化している。そのような前提に立ったうえで、日本語教育の教育目的・育成すべき人材像について考えると、これからの時代は主体的にキャリア構築できる人材の育成が必要だと考えられる。激動の時代にただ翻弄される人物ではなく、長期的なビジョンを持ち、自身の能力を生かして多様な選択肢の中から自らの将来を主体的に選択できる人物こそがこれからの時代に求められる人材と言える。本研修プログラムが「キャリア教育」を軸とする理由はここにある。

私たちが日本語学習者に彼らのキャリアについてたずねたときに、次のような答えが返ってくることもある。

やりたいことはありません

どこでもいいです

ビザがとればばいいです

簡単な仕事がいいです

志望動機はわかりません

何の会社かわかりません

とりあえず進学します

学校が紹介してください

今だけを考えた選択、狭い選択肢の中からの選択をしてしまっている学習者が少なくないように思われる。仮にこのような発言をする学習者が進学・就職できたとしても、彼らは激動の時代に翻弄されるだけの存在になってしまわないだろうか。このように考えると、今だけを考えた選択、狭い選択肢の中からの選択をしてしまう学習者を、主体的にキャリア構築ができる人材に変えるのが、これからの学校・教育のひとつの役割だと言える。日本語教師・日本語学校においても、日本語を教えるだけの役割ではなく、キャリア教育の観点から日本語教育の果たすべき役割を再考する必要がある。

2. 事業の概要

2-1 事業の概要

令和2年度事業では、以下の5つの取り組みを実施した。

(1) カリキュラム検討委員会

カリキュラム検討委員会では、2019年度事業の反省をふまえた研修目的の再設定、教育課程・シラバスの作成および研修受講者募集要項の作成等を実施した。実施期間は令和2年6月5日から8月4日までで、1回1.5時間の会議を計6回実施した。

第1回 2020/06/05

第2回 2020/06/16

第3回 2020/07/07

第4回 2020/07/14

第5回 2020/07/28

第6回 2020/08/04

(2) 教材検討・開発委員会

教材検討・開発委員会では、講師・受講者間の研修方針共有方法の検討、ゼミ科目のデザインおよびオンライン教育のデザイン等を実施した。実施期間は令和2年8月25日から10月20日までで、1回1.5時間の会議を計5回実施した。

第1回 2020/08/25

第2回 2020/09/15

第3回 2020/09/29

第4回 2020/10/06

第5回 2020/10/20

(3) 事業評価委員会（プロセス評価）

教育課程の検討・教材作成・研修準備等が計画通りに進んでいるかを評価した。実施期間は令和2年8月28日から10月13日までで、1回1時間の会議を計2回実施した。

第1回 2020/08/28

第2回 2020/10/13

(4) 研修

カリキュラム検討委員会で作成したシラバスにもとづき計42単位時間（1単位時間45分）の対面研修を実施した。実施期間は令和元年11月21日から令和2年2月13日までであった。

Day1 2020/11/21

Day2 2020/11/28

Day3 2020/12/05

Day4 2020/12/19

Day5 2020/12/26

Day6 2021/01/16

Day7 2021/01/30

Day8 2021/02/13

(5) 事業評価委員会（アウトカム評価）

本事業の目的・目標の達成状況等を評価した。実施期間は令和3年2月24日から3月3日まで。1回1時間の会議を計2回実施した。

第1回 2021/02/24

第2回 2021/03/03

2-2 事業委員会の構成

各委員会の委員等は以下の通りである。

(1) カリキュラム検討委員会

委員長	小林 司朗	学校法人神戸学園理事、学校法人時習学館理事、 学校法人神戸学園専門学校アートカレッジ神戸校長
委員	田中 裕祐	学校法人福寿プロスペラ学院ビジネス専門学校次長
	長谷川 守寿	東京都立大学教授
	松崎 寛	筑波大学准教授
	井上 里鶴	つくばにほんごサポート代表

(2) 教材検討・開発委員会

委員長	小林 司朗
委員	田中 裕祐
	長谷川 守寿
	松崎 寛
	井上 里鶴

(3) 事業評価委員会

委員長	小林 司朗
委員	田中 裕祐
	井上 里鶴
	酒井たか子 元筑波大学教授
	一二三朋子 元筑波大学教授
	渡邊佳代子 A.C.C.国際交流学園校長
	原田正己 元静岡県立下田高等学校校長

2-3 事業日程概観

以下は、2019 年度事業から令和 2 年度事業までの事業全体の日程を概観したものである。丸の中の数字が当該年度における会議・研修の回を表す。

2019 年度事業	令和元年								令和 2 年		
	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
カリキュラム 検討委員会					①9/12 ②9/20 ③9/27	④10/8 ⑤10/10 ⑥10/18					
教材検討開発 委員会						①10/8 ②10/17 ③10/25	④11/1 ⑤11/15				
事業評価委員会 プロセス評価					①9/26		②11/25				
研修								①12/21	②1/11 ③1/25	④2/1 ⑤2/15	
事業評価委員会 アウトカム評価										①2/21 ②3/4	

令和 2 年度事業	令和 2 年								令和 3 年		
	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
カリキュラム 検討委員会		①6/5 ②6/16	③7/7 ④7/14 ⑤7/28	⑥8/4							
教材検討開発 委員会				①8/25	②9/15 ③9/29	④10/6 ⑤10/20					
事業評価委員会 プロセス評価				①8/28		②10/13					

研修	①11/21	③12/5	⑥1/16	⑧2/13
	②11/28	④12/19	⑦1/30	
		⑤12/26		
事業評価委員会				①2/24 ③3/3
アウトカム評価				

3. 事業内容

3-1 教育課程の検討

カリキュラム検討委員会

カリキュラム開発は日本語教育学や言語学、外国人の社会参加等の専門家からなる検討委員会において行った。2週間に1回の会議で課題の検討や作業の進捗の確認を行い、会議の前後の期間に委員が資料作成等必要な作業を行った。

カリキュラム開発のアプローチとしては、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」で示された日本語教師【中堅】に対する教育内容をもとにカリキュラムを構成する内容重視型アプローチと、本事業の目的である以下の3項目に焦点を当てる目標重視型アプローチとの折衷的なアプローチを採用した。

- (1) 日本語教師としての高度な専門的知識をもち、そのうえで日本語教育とキャリア教育を関連付けて考えることができる
- (2) 日本語学習者のキャリアを考慮した教育プログラムの策定や体系的な指導を行うことができる
- (3) 教育現場における問題発見解決に取り組むために必要なコミュニケーション能力および問題発見解決能力をもつ

また、2019年度事業の課題である以下の点について中心的な議事とした。

- (1) 本事業のキーワード「キャリア」「コミュニケーション能力」「問題解決能力」の定義の明確化

2019年度事業では「キャリア」という研修の方向性を打ち出したことは大きな成果であったものの、「キャリア」をはじめとした鍵概念について定義が明確でなく、受講者・講師ともに共通認識をもって研修に臨むことが十分にできていなかった。よって、カリキュ

ラム検討委員会では、研修の目的・理念を中心的な議事とした。また、カリキュラム、シラバス、募集要項をおもな成果物として作成した。

カリキュラム検討委員会各回の主な議事は以下の通りである。

第1回 2020/06/05

- ・ 2019年度の反省点の振り返り
- ・ 本年度事業方針の検討

第2回 2020/06/16

- ・ 研修受講者にとってのメリットの明確化
- ・ シラバス作成方針の検討
- ・ 研修形式（対面・オンライン）の検討

第3回 2020/07/07

- ・ 研修受講者にとってのメリットの明確化
- ・ 研修修了要件の検討
- ・ シラバスの検討

第4回 2020/07/14

- ・ ゼミの内容の検討
- ・ シラバスの検討

第5回 2020/07/28

- ・ ゼミの内容の検討
- ・ シラバスの検討
- ・ 研修日程の検討

第6回 2020/08/04

- ・ ゼミの内容の検討
- ・ シラバスの検討

研修の理念

留学生 30 万人計画・在留資格特定技能の導入・新型コロナウイルス感染拡大など、近年日本語学習者を取りまく環境が大きく変化していることから、学習者が主体的にキャリア構築できるようにすることがこれからの日本語教育に求められることのひとつだと考えられる。そこで、本事業では、主体的にキャリア構築ができる学習者を育成するために日本語教師に求められる能力を「キャリア教育能力」と名付け、その習得を軸として研修を構成した。キャリア教育能力の養成を図った研修プログラムの開発により、本事業の以下の3つの目的を達成することができると思われる。

- (1) 日本語教師としての高度な専門的知識をもち、そのうえで日本語教育とキャリア教育を関連付けて考えることができる
- (2) 日本語学習者のキャリアを考慮した教育プログラムの策定や体系的な指導を行うことができる
- (3) 教育現場における問題発見解決に取り組むために必要なコミュニケーション能力および問題発見解決能力をもつ

キャリア教育能力は、①日本語教育の専門知識、②日本語教師のコミュニケーション能力、③日本語教師の問題発見解決能力の3つの能力から構成されていると考えた。日本語教育をととして主体的にキャリア構築ができる学習者の育成を行うために、日本語教育の専門知識が必要なことは言うまでもない。また、学校教育をはじめとした教育の改善のためには、教師一人の成長だけでは不十分で、教育組織に関わる多くの教師・職員を巻き込む必要があり、教師のコミュニケーション能力が重要になる。さらに、教育の改善はやみくもに取り組んでも成果は出にくく、問題発見解決のフレームワークの活用などが効果を発揮する。以上の3つの能力を身につけることを目指して本研修プログラムを構成した。なお、③問題発見解決能力については、2019 年度事業では問題解決能力と呼んでいたが、問題は自明のものではなく発見するということが重要な意味を持つことから問題発見解決能力と呼称を改めた。

以上のようなキャリア教育能力の考えを前提として、本事業では以下の3つの理念のもと研修プログラムを構成することとした。

A 受講者がキャリア教育能力を身につける研修

本研修プログラムでは、主体的にキャリア構築ができる日本語学習者を育成するために日本語教師に求められる力をキャリア教育能力と名づけ、受講者の方々にキャリア教育能力を身につける機会を提供する。具体的には、キャリア教育能力を①日本語教育の専門知識、②コミュニケーション能力、③問題発見解決能力の3つから構成されていると考え、その3つの能力を育成することを目指した研修プログラムを構成した。

①日本語教育の専門知識について、本事業は中堅日本語教師を対象とすることから、特に中堅日本語教師に求められる日本語教育の専門知識を扱うこととする。具体的には、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」で示された日本語教師【中堅】に対する教育内容を中堅日本語教師に求められる日本語教育の専門知識と考える。②コミュニケーション能力について、ここでのコミュニケーション能力とは、説得や交渉のために手段として用いられるコミュニケーションを指し、とりわけ教育現場の改善のために職員間で取り交わされる対話や議論を想定している。③問題発見解決能力についても、教育現場の改善を主な対象として想定し、あるべき姿と現状のギャップを問題と考える考え方を採用した。

B 受講者が自らが学びを見出す研修

本研修プログラムでは、受講者が受動的に知識を受容するだけの研修ではなく、学習内容を受講者自身の教育観や教育環境に照らし合わせて解釈することで、受講者自身の学びを構成できる研修を目指した。

そのために、毎回の研修の最後に「学びの共有ゼミ」というその日に学んだことを振り返り、自分なりの学びとして再構築することを目的とした時間を設定することとした。学びの共有ゼミでは、受講者はグループにわかれ、そこで自分がその日の研修で学んだことを思い返し言語化する。

また、研修の最終日に研修成果発表を設定した。受講者が研修内容を自らの教育現場の改善につながるものとしてとらえやすいよう、研修成果発表は、研修で学んだことを校長や教務主任、コーディネーターへの提案という形を想定してまとめて発表することとした。研修で学んだことを教育現場に還元することを前提に見直すことで、研修で学んだことが受講者独自の文脈に位置づけられることが期待される。

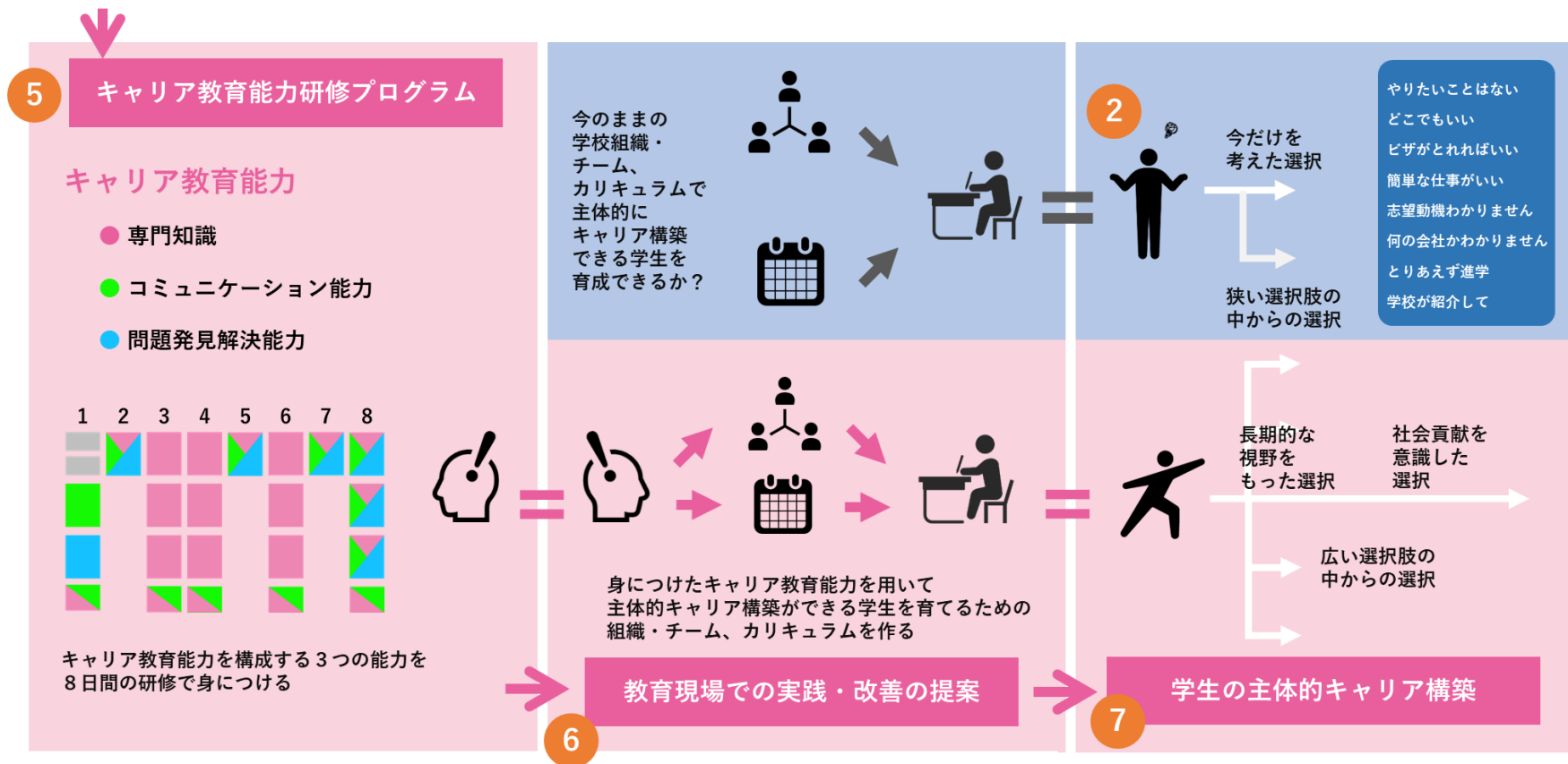
C 受講者が教育組織を変える第一歩としての研修

本研修では、受講者自身が研修を受けて成長することにとどまらず、受講者が自らの所属機関に研修の成果を還元し、所属機関がよりよくなること。それにより主体的にキャリア構築ができる学習者が育成されることを目指し、その過程の出発点として研修プログラムを位置づけた。

研修成果発表において校長や教務主任、コーディネーターへの提案という形を想定して学習成果をまとめ発表するという形式を採用したのは、この教育組織を変える第一歩として研修を位置づけるという理念にもとづいたからでもある。提案という形式を想定して研修成果をまとめることで、受講者が自分たちの所属する組織へ改善の提案をするという次のステップの足掛かりになることを目指している。

上述の本研修の背景、目的、理念をまとめたものが次ページの図である。この図は、**①②**の背景を踏まえて、**③**教育組織に変革が求められていること、教育組織が変わるために**④**日本語教師の成長が求められており、**⑤**本研修はそのためにキャリア教育能力向上のためのプログラミングを提供していること、本研修プログラムでは**⑥**研修を受講して終わりではなく現場への還元を目指しており、**⑦**それが学生の主体的キャリア構築の実現につながることを表している。なお、本事業で実施した研修では日本語学校に所属する受講者が多かったため、図中では教育組織に変えて学校、部分的に日本語学習者ではなく留学生という表現を使用している。

- 1 これからの時代の留学生に求められる
主体的にキャリア構築する力
- 3 学習者を変えるために
学校が変わる
- 4 学校が変わるために教師が
キャリア教育能力を身につける



① これからの時代の日本語学習者に求められる主体的にキャリア構築する力

日本社会における産業・経済構造の変化や雇用の多様化・流動化が指摘されて久しい。また、留学生 30 万人計画、在留資格特定技能の導入、新型コロナウイルス感染拡大など、近年日本語学習者をとりまく環境は大きく変化している。そのような前提に立ったうえで、日本語教育の教育目的・育成すべき人材像について考えると、これからの時代は主体的にキャリア構築できる人材の育成が必要だと考えられる。激動の時代にただ翻弄される人物ではなく、長期的なビジョンを持ち、自身の能力を生かして多様な選択肢の中から自らの将来を主体的に選択できる人物こそがこれからの時代に求められる人材と言えるだろう。

② こんな人はいませんか

私たちが日本語を教えている学習者に彼らのキャリアについてたずねたときに、次のような答えが返ってくることがある。

やりたいことはありません

どこでもいいです

ビザがとれればいいです

簡単な仕事がいいです

志望動機はわかりません

何の会社かわかりません

とりあえず進学します

学校が紹介してください

今だけを考えた選択、狭い選択肢の中からの選択をしてしまっている学習者はいないだろうか。上記の発言の中には日本語学習者特有のものもあるし、多くの若者が抱える課題もあるが、仮にこのような発言をする学習者を進学・就職させることができたとしても、彼らは激動の時代に翻弄されるだけの存在になってしまわないだろうか。

③ 学習者を変えるために教育組織が変わる

このように考えると、今だけを考えた選択、狭い選択肢の中からの選択をしてしまう学習者を、主体的にキャリア構築ができる人材に変えるのが、これからの教育組織の役割であり教育の役割と言える。日本語教師の役割は、日本語学習者にあったキャリアをデザインしてあげるのではなく、学習者が自分自身で考えてキャリアを選択していくことができるようにすることである。では、現状の教育組織・チームやカリキュラムは、主体的にキャリア構築ができる人材を育成できるものになっているだろうか。

④ 教育組織が変わるために教師がキャリア教育能力を身につける

⑤ キャリア教育能力を身につけるためのキャリア教育能力研修プログラム

主体的にキャリア構築ができる日本語学習者を育成するために日本語教師に求められる力をここではキャリア教育能力と名づける。本研修プログラムは、受講者の方々にこのキャリア教育能力を身につける機会を提供することを目的とする。

キャリア教育能力は、日本語教育の専門知識・コミュニケーション能力・問題発見解決能力の3つの能力から構成されていると考える。日本語教育をとおして主体的にキャリア構築ができる学習者の育成を行うために日本語教育の専門知識が必要なことは言うまでもない。また、教育の改善のためには、教師一人の成長だけでは不十分で、教育組織に関わる多くの教師・職員を巻き込む必要があり、教師のコミュニケーション能力が重要になる。さらに、教育の改善はやみくもに取り組んでも成果は出にくく、問題発見解決のフレームワークの活用などが効果を発揮する。以上の3つの能力を身につけることを目指して本研修プログラムは構成されている。

⑥ 教育現場での実践・改善の提案

⑦ 学習者の主体的キャリア構築の実現

受講者には、研修で身につけたキャリア教育能力を現場に還元してもらいたい、つまり主体的にキャリア構築ができる学習者を育てるための組織・チーム、カリキュラムを作り上げてもらいたいと考えている。そのために本研修プログラムでは、研修最終日に校長や教務主任、コーディネーターへの提案という形式で最終発表を行うことをゴールとして設定する。

カリキュラム・シラバス

上述の事業の目的および3つの理念にもとづいた研修プログラミングのカリキュラムを開発した。

キャリア教育 基礎科目	オリエンテーション・イントロダクション	2 単位時間
	コミュニケーション能力	2 単位時間
	問題発見解決能力	2 単位時間
	キャリア支援の基礎	2 単位時間
	外国人材を受け入れている企業の声	2 単位時間
日本語教育 専門科目	日本語教育プログラムデザイン 1	2 単位時間
	日本語教育プログラムデザイン 2	2 単位時間
	日本語教育プログラムデザイン 3	2 単位時間
	日本語教育における ICT の活用	2 単位時間
	ビジネス日本語能力の評価と測定	2 単位時間
	コーパスを活用した日本語の分析	2 単位時間
	日本語教育施策・外国人施策	2 単位時間
ゼミ科目	学びの共有ゼミ	6 単位時間
	研修成果発表とその準備ゼミ	12 単位時間
合計		42 単位時間

本研修では、下記「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」で示された日本語教師【中堅】に対する教育内容をキャリア教育の観点から取り上げ扱う。

- (1) 日本の在留外国人施策・制度
- (2) 関係府省庁による日本語教育施策
- (3) 日本語の試験

- (4) 国内外の多様な日本語教育事情
- (5) 学習者の社会参加
- (6) 異文化間トレランス
- (7) 言語学習・教育の情意的側面
- (8) 日本語教育プログラム及び教育環境デザイン
- (9) 目的・対象別日本語教育法
- (10) 評価法
- (11) 異領域との協働
- (12) 日本語教育プログラムにおける ICT の活用
- (13) マネージメント能力
- (14) 事務・管理能力
- (15) 人材育成能力
- (16) ネットワーキング力

特に(5)の社会参加、(4) (8) (9) (10) (12)の言語教育法・実践とその関連項目、(13) (14) (15) (16)の中核人材としての管理能力の3つをキャリア教育と関わりの深い教育内容と考え重点的に扱う。これらに加えて基礎的なキャリア教育に関する事項も扱う。

研修科目は、キャリア教育能力の基礎となる「キャリア教育基礎科目」、日本語教師【中堅】研修における教育内容にもとづいた「日本語教育専門科目」、受講者自らの教育現場に照らし合わせて学びを深める「ゼミ科目」の3種類に大別する。「キャリア教育基礎科目」はキャリア教育能力の3つの構成要素すべてに焦点を当てたもの、「日本語教育専門科目」は主に日本語教育の専門知識に焦点を当てたもの、「ゼミ科目」は主にコミュニケーション能力と問題発見解決能力に焦点を当てたものとなっている。研修の各科目と上記日本語教師【中堅】に対する教育内容との関連は以下の通りである。

【キャリア教育基礎科目】

- ・ イントロダクション (4)(5)
- ・ コミュニケーション能力 (6)(11)(13)(15)(16)
- ・ 問題発見解決能力 (11)(13)(14)(15)(16)

- ・ キャリア支援の基礎 (5)(6)(7)(15)
- ・ 外国人材を受け入れている企業の声 (1)(2)(5)(6)

【日本語教育専門科目】

- ・ 日本語教育プログラムデザイン 1 (1)(2)(4)(8)(11)(13)(14)
- ・ 日本語教育プログラムデザイン 2 (4)(5)(7)(8)(9)(10)
- ・ 日本語教育プログラムデザイン 3 (4)(5)(6)(8)(9)(10)(11)
- ・ 日本語教育における ICT の活用 (4)(5)(7)(8)(11)(12)(13)
- ・ ビジネス日本語能力の評価と測定 (3)(5)(9)(10)
- ・ コーパスを活用した日本語の分析 (5)(9)(12)
- ・ 日本語教育施策・外国人施策 (1)(2)(5)

【ゼミ科目】

- ・ 学びの共有ゼミ (13)(14)(15)(16)(各回の研修および受講者自身の抱える課題に関わる内容)
- ・ 研修成果発表の準備ゼミ (13)(14)(15)(16)(受講者自身の抱える課題に関わる内容)
- ・ 研修成果発表 (13)(14)(15)(16)(受講者自身の抱える課題に関わる内容)

上記の各科目について、研修を担当する講師がシラバスを作成した。シラバスには、科目名・到達目標・研修内容概要・教材・事前課題について記載した。各シラバスの執筆者は以下の通りである。

【キャリア教育基礎科目】

- ・ オリエンテーション・イントロダクション 田中裕祐
- ・ コミュニケーション能力 小林司朗
- ・ 問題発見解決能力 小林司朗
- ・ キャリア支援の基礎 杉山秀樹

- ・ 外国人材を受け入れている企業の声

朝比奈岳哉

【日本語教育専門科目】

- ・ 日本語教育プログラムデザイン 1
- ・ 日本語教育プログラムデザイン 2
- ・ 日本語教育プログラムデザイン 3
- ・ 日本語教育における ICT の活用
- ・ ビジネス日本語能力の評価と測定
- ・ コーパスを活用した日本語の分析
- ・ 日本語教育施策・外国人施策

柳田憲昭

松崎寛

井上里鶴

甲斐晶子

小野塚若菜

長谷川守寿

長谷川頼子

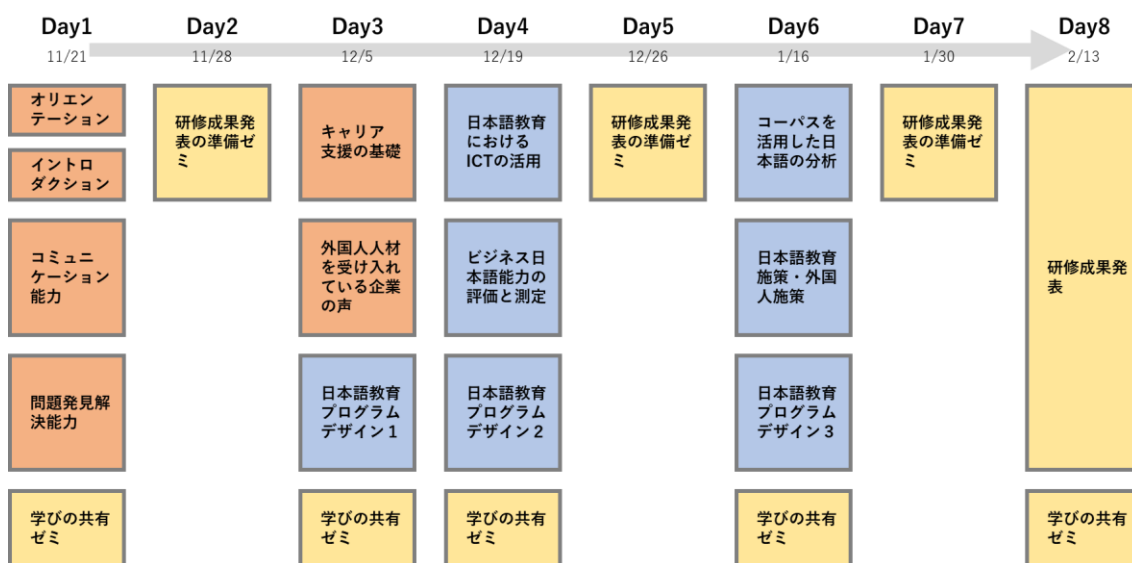
【ゼミ科目】

- ・ 学びの共有ゼミ
- ・ 研修成果発表とその準備ゼミ

井上里鶴

田中裕祐

研修は全 8 日間の日程で執り行うこととした。日程は、専門家による講義と学びの共有ゼミからなる Day1, 3, 4, 6 と、研修成果発表の準備と発表を行う Day2, 5, 7, 8 の 2 つに大別される。下図の赤で示された科目は「キャリア教育基礎科目」、青で示された科目は「日本語教育専門科目」、黄色で示された科目は「ゼミ科目」を表す。



受講者は、日本語教師【中堅】（3年以上の日本語教育歴を持つもの）で現在日本語学校・専修学校・大学等の教育機関に所属しており日本語教育に関わる業務に携わっている者とした。また、オンライン研修のための機材・環境等を自身で準備できることも求めた。

研修の修了要件は、以下の通り設定した。

1. 対面研修およびオンライン研修に6日以上出席し、積極的に参加すること
2. 学びの振り返りシートおよび講師より指示のあった課題を提出すること
3. 受講者最終発表でグループ発表を行うこと

3-2 教材の検討・開発

教材検討開発委員会

教材の検討・開発は日本語教育学や言語学、外国人の社会参加等の専門家からなる検討委員会において行った。2週間に1回の会議で課題の検討や作業の進捗の確認を行い、会議の前後の期間に委員が資料作成等必要な作業を行った。教材検討開発委員では、教材を広く教育方法ととらえ検討開発を行った。よって、プリントやスライドといった成果物の開発だけでなく、オンライン研修の方法の検討など教育方法についても議事として扱った。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の情勢を鑑み、オンライン研修プログラムを実施することとした。具体的には、研修 Day1 と Day8（最終日）は対面、それ以外の日はオンラインで受講するブレンド型と、研修 Day1 から Day8（最終日）まですべての研修をオンラインで受講する完全オンライン型の2つの受講スタイルを設定することとした。この決定にともない、教材検討開発委員会の中心的な議事として、どのように効果的にオンライン研修を実施するかを扱うこととした。教材検討開発委員会の策定した方針にもとづき各講師がオンライン研修で使用可能な教材の開発を行った。

研修の教育方法として講義だけでなくケーススタディやディスカッションなどを採用することを教材開発の前提とした。また、2019年度事業で効果的だったグループワークや発表も積極的に採用した。これらは、本研修の目的が知識の習得だけでなく、実際に教育現場の問題発見解決に取り組める日本語教師の養成にあるためである。特に2019年度事業にない科目であるゼミ科目の方法・教材の検討を教材検討開発委員会の中心的な議事となった。

教材検討開発委員会各回の主な議事は以下の通りである。なお、本来カリキュラム検討委員会で行う予定であったシラバスの確認についても、完了しなかった分については教材検討開発委員会で議事とした。

第1回 2020/08/25

- ・ キャリア教育能力の定義の共有方法

- ・ シラバスの検討（カリキュラム検討委員会で完了しなかった分）

第2回 2020/09/15

- ・ キャリア教育能力の定義の共有方法
- ・ オンライン研修の方法
- ・ シラバスの検討（カリキュラム検討委員会で完了しなかった分）

第3回 2020/09/29

- ・ キャリア教育能力の定義の共有方法
- ・ シラバスの検討（カリキュラム検討委員会で完了しなかった分）
- ・ ゼミ科目の方法・教材

第4回 2020/10/06

- ・ ゼミ科目の方法・教材
- ・ オンライン研修の方法
- ・ 科目別事前課題

第5回 2020/10/20

- ・ ゼミ科目の教材
- ・ オンライン研修の方法
- ・ 研修当日までの準備の確認

オンライン研修

新型コロナウイルス感染拡大の情勢を鑑み、オンライン研修プログラムを実施した。具体的には、研修 Day1 と Day8（最終日）は対面、それ以外の日はオンラインで受講するブレンド型と、研修 Day1 から Day8（最終日）まですべての研修をオンラインで受講する完全オンライン型の2つの受講スタイルを設定することとした。受講者は申込時にいずれかの受講スタイルを選択した。なお、ブレンド型受講について、実際は新型コロナウイルス感染拡大および緊急事態宣言の発令を考慮し、対面で研修を実施したのは Day1 のみで、Day8 は全ての受講者がオンラインで研修を受講した。

オンライン研修は Web 会議サービス Zoom を使用した。Web 会議は運営をホストとして開催し、必要に応じて講師を共同ホストに設定した。スライドなどの教材は Zoom の画面共有機能を使用して受講者に見せた。また、Zoom のチャット機能を使用して必要なデータや Web サイトの URL を共有した。さらに Zoom のブレイクアウトセッションの機能を用いてグループワークを行うこととした。

Zoom とは別に Google ドライブや Google ドキュメント、Google Jamboard などを使用して資料の共有やグループワークなどを行える体制を構築した。研修講師は以上のような前提のもと教材開発を行った。



オンライン研修の実施にあたり、下記のように受講上のルールを設定した。

著作権・プライバシー

- ☐ 講師の許可なく研修の録画・録音・スクリーンショット等を行わないこと。承諾を受けたとしても、その内容を SNS を含むインターネット上に公開しないこと。
- ☐ 授業資料や研修自体について録画・録音・スクリーンショット・ダウンロード等したものを第三者に提供しないこと。また、第三者が閲覧可能な形でアップロードしないこと。

情報セキュリティ

- ☐ 研修へのアクセス方法（URL など）を研修に関する ID やパスワードを他人に公開しないこと。
- ☐ 研修を通して知りえた個人情報や機密情報を他人に教えないこと。
- ☐ 不正なアクセス等オンライン研修を妨害する行為を行わないこと。

受講時の注意

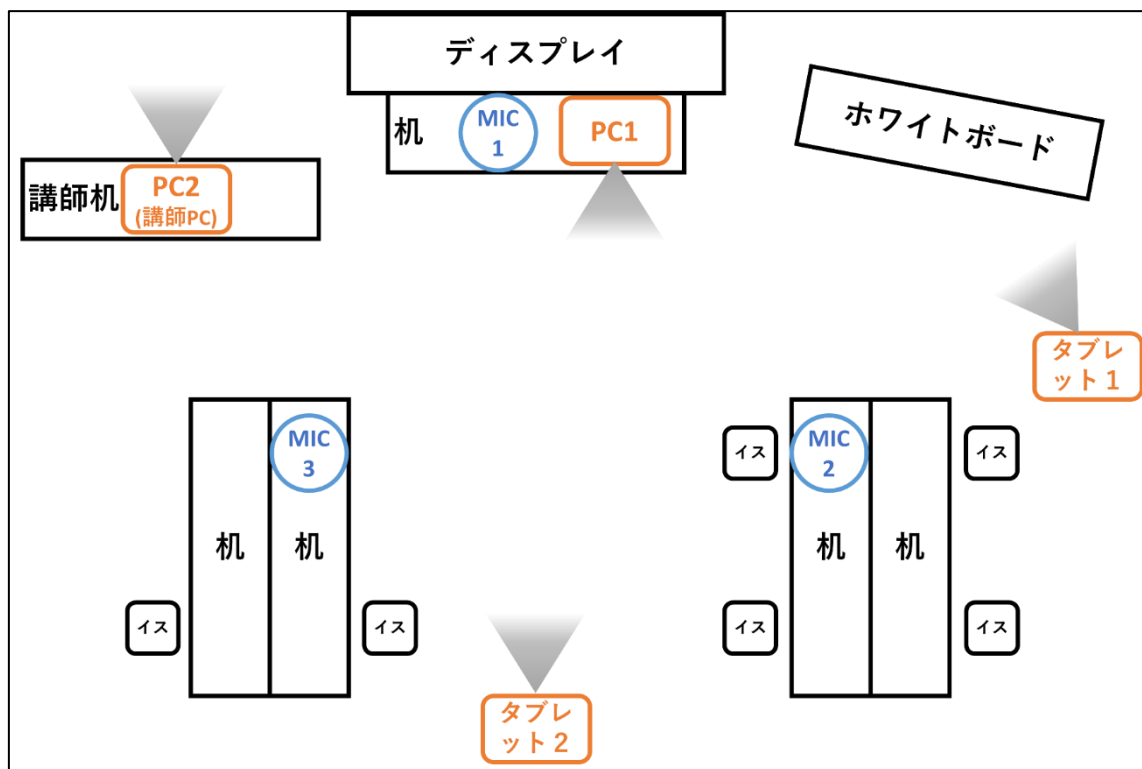
- ☐ オンライン研修中は原則カメラをオン・音声をミュートにすること。また、講師の指示に従って適宜カメラのオンオフやミュートの設定を行うこと。
- ☐ 暴力的な行為（他者の発言や人格を誹謗もしくは中傷すること等）を行わないこと。
- ☐ ハラスメントや人権侵害にあたる行為等を行わないこと。
- ☐ 他者による身代わり受講等の不正行為を行わないこと。

上記のルールは受講者・講師ともに研修前に共有した。また、毎回の研修開始時に確認した。

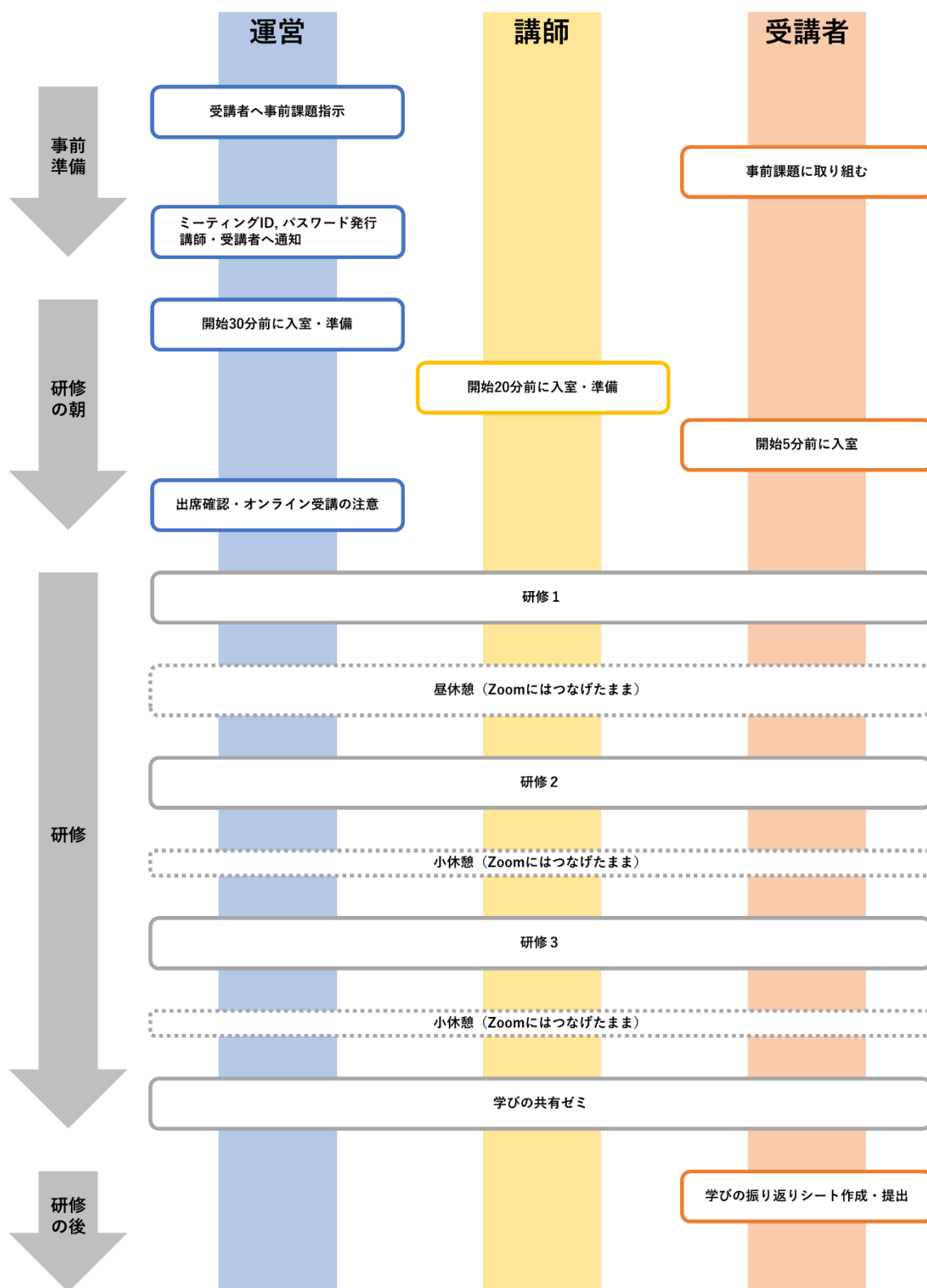
研修開始前に受講者・講師双方を対象として、オンライン事前練習会を開催し、Zoom の接続や基本的な機能の確認を実施した。また、受講者に対しては、研修 Day1 オリエンテーション・イントロダクションの際に改めて Zoom でよく使用する機能の確認を行った。オンライン事前練習会は研修 1 週間前までには完了するよう実施した。オンライン事前練習会で確認した項目は以下の通りである。

- ・ Zoom 基本操作（入室、カメラのオンオフ、音声のオンオフ（ミュート）、画面共有、ブレイクアウトルーム、チャット、名前の変更、退室などの方法の確認）
- ・ Zoom は最新バージョンにアップデートしておく
- ・ Zoom の名前は申し込みの名前+ひらがなで設定
- ・ 受講者はカメラはオン・音声はミュート（講師の指示でオフ・解除）
- ・ 機器の設定（PC で参加（タブレットやスマートフォンは不可）、静かな場所で参加、安定したネット環境を準備、イヤホン着用）
- ・ トラブル時は再起動できるように PC を整理しておく

Day1 はブレンド型の受講スタイルを選択した受講者は会場で、完全オンライン型の受講スタイルを選択した受講者はオンラインでそれぞれ研修を受講した。よって、いずれの受講スタイルの受講者も同様に研修を受けることができるように次の図のようなレイアウトで会場を設営した。オンライン受講者は PC 1、PC 2、タブレット 1、タブレット 2 のうち好きな映像を選択してみるができる。



オンライン研修時の大まかな流れは以下の通りである。



また、研修後には、受講者の復習のために研修風景を録画したビデオ教材を配信することとした。研修風景の録画は受講者および講師に事前の許可を得たうえで実施した。配信はYouTubeを用いて行い、限定公開とすることで受講者以外のものが見ることができないようにした。また、1週間の期間を限定して配信することにした。

文化庁研修Day1 オリエンテーション

検索

4 学校が変わるために教師が
キャリア教育能力を身につける

3 学習者を変えるために
学校が変わる

1 これからの時代の留学生に求められる
主体的にキャリア構築する力

5 キャリア教育能力研修プログラム

キャリア教育能力

- 専門知識
- コミュニケーション能力
- 問題発見解決能力

1 2 3 4 5 6 7 8

キャリア教育能力を構成する3つの能力を
8日間の研修で身につける

今のままの
学校組織・
チーム・
カリキュラムで
主体的に
キャリア構築
できる学生を
育成できるか?

2 今だけを
考えた選択

狭い選択の
中からの選択

やりたいことほい
と何でもい
いやがとればいい
結果は思えない
卒業後がわからない
何の会社かわかりません
と不安で進学
希望が閉ざして

身につけたキャリア教育能力を用いて
主体的キャリア構築ができる学生を育てるための
組織・チーム、カリキュラムを作る

6 教育現場での実践・改善の提案

7 学生の主体的キャリア構築

長期的な
視野を
もった選択

社会貢献を
意識した
選択

広い選択の
中からの選択

文化庁研修Day1 オリエンテーション・イントロダクション 田中

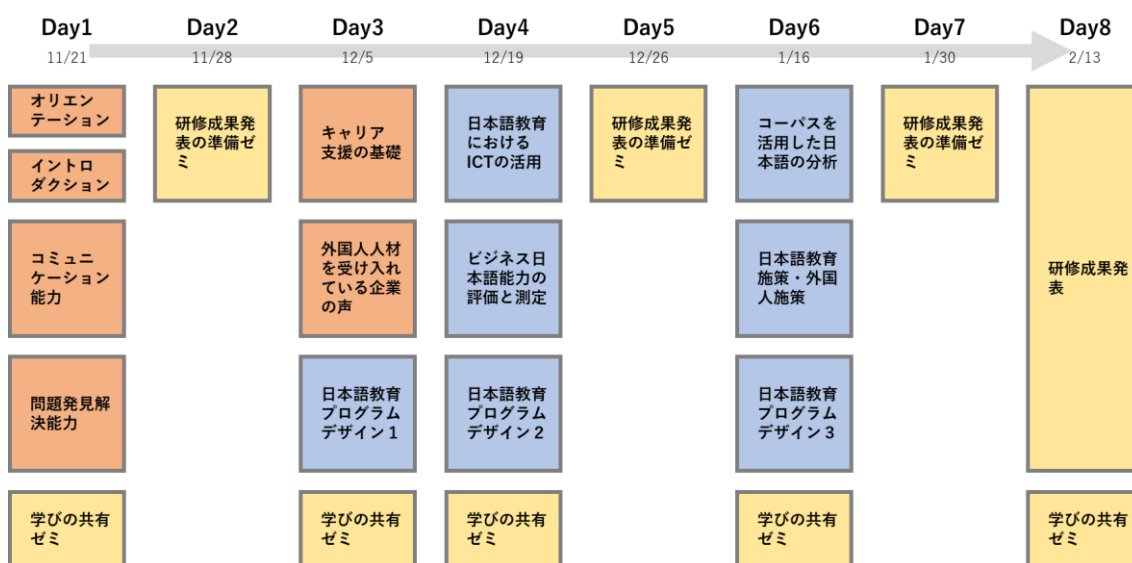
限定公開

6 回視聴・2020/12/17

0 0 共有 保存 ...

ゼミ科目

本研修プログラムでは、学びの共有ゼミと研修成果発表の準備ゼミという2つのゼミ科目を設定した。学びの共有ゼミは講義のある研修日の最後に、研修成果発表の準備ゼミは講義のある研修日とは別日程で実施することにした。



学びの共有ゼミは、各研修で得た自己の学びをアウトプットし、他の受講者と共有することにより自身の学びを深めることができることを目的とする活動である。学びの共有ゼミは、研修各日の最終コマに設定している。この時間は新たな知識をインプットする場ではなく、その日の研修から得た「学び」や「気づき」を他の受講者と共有することで自身の学びを深める場である。少人数で議論をしながら、じっくり研修を振り返る。日本語教育の専門知識を自分なりに解釈すること、それを他の受講者と共有することでコミュニケーション能力を伸ばすこと、自身の教育観や教育現場に照らし合わせて研修内容を再解釈することで問題発見解決能力を向上することを目指したキャリア教育能力全般に関わる研修科目となっている。

学びの共有ゼミは1回45分程度で実施した。初めに学びの共有ゼミの目的を確認する。その後4人程度ずつのグループに分かれて、その日の研修での学びや気づき、キャリア教育にどのように活かせるのかを話し合う。その際ほかの人の意見を否定したり結論をだそうとしたりしないようにする。グループ分けは毎回ランダムに行った。20分程度のグループワークのあと、グループごとに出た意見をそれぞれのグループの代表者が全体に共有する。なおグループワークはZoomのブレイクアウトセッションの機能を用いて実施した。

学びの共有ゼミで話しあったことをもとに、受講者には事後課題として「学びの振り返りシート」の作成を課した。学びの振り返りシートでは、「① 今日の研修で新しく学んだことや気がついたことを書いてください。」「② 今日学んだことを、留学生のキャリア教育にどのように活かせると思いますか。」という2つの質問を設定し、受講者はそれぞれに自由記述で回答する。学びの振り返りシートは、Day8を除く学びの共有ゼミを受講した日の必須課題として計4回提出を求めた。学びの振り返りシートは教材検討開発委員において開発した。

研修成果発表の準備ゼミは、研修成果発表の準備を行うことを目的としたゼミ科目である。今回の研修では、Day2、Day5、Day7の3日間設定した。研修成果発表は、研修で学んだ終わりではなく、研修を通して学んだことを学校の改善や主体的にキャリア構築ができる日本語学習者の育成のために生かすことができるようになるという目的のために設定された。具体的には、研修で学んだことを教育現場にどのように還元するか、校長や教務主任、コーディネーターへの提案という形でまとめることを目標とした研修科目である。受講者には、研修最終日Day8にグループでZoomを用いたオンラインプレゼンテーションを実施することを求めた。研修成果発表への参加は本研修プログラムの修了要件の一つとした。

研修成果発表の準備ゼミでは、研修成果発表の準備としてグループワークで提案先の検討、提案内容の検討、プレゼンテーションの準備などを行った。研修成果発表の準備ゼミのグループは研修成果発表のグループと同じで、毎回固定されたメンバーでワークを行った。研修成果発表の準備の進め方は各グループに一任した。これは、グループのメンバーとのやり取りを通したコミュニケーション能力の向上の場としても研修成果発表の準備ゼミを捉えているためである。ただし、全くの放任ではグループによって取り組みの質に差

がでてしまうのではないかと懸念から、以下のような研修成果発表の準備ゼミの進捗モデルを受講者には提示することにした。

Day 2, 5, 7 の進捗モデル

Day 1

- 1 グループ分け、自己紹介
- 2 校長や入管など提案先を決める
- 3 提案するテーマを決める
- 4 準備のスケジュール立案
- 5 具体的な提案内容を決める

問題発見解決 * Day 1 「問題発見解決能力」研修参照

Step 1 現状分析

Step 2 あるべき姿の策定

Step 3 アプローチ（解決策）の立案・計画・実行

Day 2

- 1 具体的な提案内容を決める
- 2 研修成果発表プレゼンテーション準備

役割分担、プレゼン方法、発表のフレームなど

Day 3

- 1 研修成果発表プレゼンテーション準備

資料準備、発表練習など

また、以下のようなグループワークを進めるうえでのヒントもあらかじめ提示した。

- ・ まず進行・書記など役割分担をしてから議論をはじめると効率的です。
- ・ 毎回の研修成果発表の準備ゼミで、講師からその日のミッションを発表します。

- ・ まずはミッションの達成をその日のグループワークの目標にしてはいかがでしょうか。
- ・ グループワーク用に Google ドキュメントのファイルをご用意しましたのでご活用ください。
- ・ 他のグループのドキュメントも覗くことができるように設定していますので、行き詰まったら他のグループのドキュメントを試してみるのもいいかもしれません。

研修成果発表では「提案」という形式でプレゼンテーションを行う。このような形式をとることで、研修成果発表が研修で学んだことを受講者自身の教育現場に還元するための橋渡しとしての機能を果たすことができるのではないかと考えたためである。提案は、具体的な提案先を想定して行うこととした。受講者には、Day 2 のグループワークの前に、想定する提案先として以下のような例を示した。なお、受講者の雇用形態や所属機関との関係の多様性を鑑み、研修では実際に所属機関等で提案をするところまでは求めないこととした。

想定する提案先の例

専任講師、非常勤講師、教務主任、募集担当、進路担当、校長
 コーディネーター
 上司、同僚、部下
 出入国在留管理庁、文化庁

研修成果発表の大テーマは、主体的にキャリア構築ができる学生を育成する日本語教育の実現のためのグループメンバー自身の教育現場の問題発見と解決への提案としたが、具体的なテーマはグループで決定してもらうことにした。受講者には、Day 2 のグループワークの前に、テーマの例として以下のようなものを示した。

研修成果発表のテーマの例

日本語教育における理想のキャリア教育とはどのようなものか？

留学生のキャリアを考えた初級シラバスを考えよう

語彙リストの「キャリア教育」の観点からの評価 ―コーパスを使った調査―

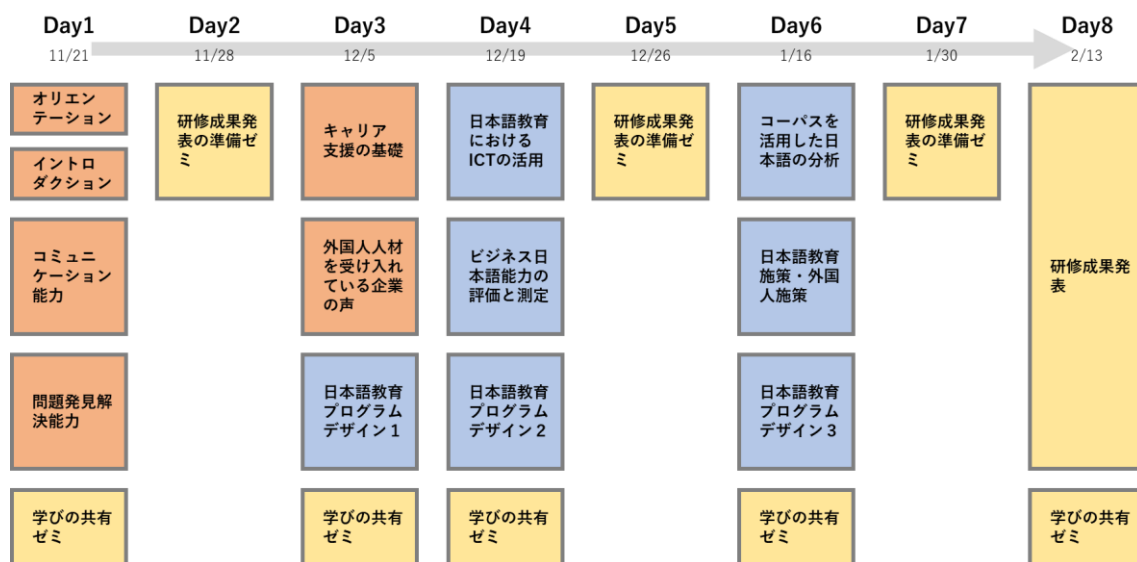
アフターコロナの日本語学校の進路指導の在り方とは

プレゼンテーションでは、ブレンド型の受講者も完全オンライン型の受講者も Zoom を使用することとした。ただし、実際は、Day 8 はコロナウイルス感染拡大および緊急事態宣言発令の情勢を鑑み、すべての受講者がオンラインで参加した。具体的な発表方法は、グループで決定した。運営としては、Zoom の画面共有機能を使用できるように準備を行った。発表時間は 1 グループ 25 分（発表 10 分＋議論・質疑応答 10 分＋講師からのコメント 5 分）で設定した。

3-3 研修の実施

研修概要

カリキュラム検討委員会・教材検討開発委員における企画・準備を経て、令和2年11月21日から令和3年2月13日まで、全8日間の研修を開催した。



受講者は、日本語教師【中堅】（3年以上の日本語教育歴を持つもの）で現在日本語学校・専修学校・大学等の教育機関に所属しており日本語教育に関わる業務に携わっている者とした。また、オンライン研修のための機材・環境等を自身で準備できることも受講資格に加えた。

受講方法としては、研修 Day1 と Day8（最終日）は対面、それ以外の日はオンラインで受講するブレンド型と、研修 Day1 から Day8（最終日）まですべての研修をオンラインで受講する完全オンライン型の2つの受講スタイルを設定した。ブレンド型も完全オンライ

ン型も研修内容や日程は同じである。定員はブレンド型と完全オンライン型を合わせて 24 名とした。

1 日の流れは以下のように大きく 2 パターン設定した。

パターン 1 Day 1, 3, 4, 6, 8

専門知識に関する研修＋学びの共有ゼミを行う日

(Day 8 は研修成果発表と学びの共有ゼミ)

10:00~10:10 出席確認
10:10~11:40 研修 1
11:40~12:30 昼休憩
12:30~14:00 研修 2
14:00~14:20 休憩
14:20~15:50 研修 3
15:50~16:10 休憩
16:10~16:55 学びの共有ゼミ
16:55~17:00 事務連絡等

パターン 2 Day 2, 5, 7

研修成果発表のための準備ゼミを行う日

10:00~10:10 出席確認
10:10~12:00 研修成果発表のための準備ゼミ

受講費用は税込み 53,000 円に設定した。この中には研修受講料・教材費などを含んでいる。受講料はブレンド型の受講スタイルも完全オンライン型の受講スタイルも同一とした。

研修の修了要件は、以下の通り設定した。

1. 対面研修およびオンライン研修に 6 日以上出席し、積極的に参加すること
2. 学びの振り返りシートおよび講師より指示のあった課題を提出すること
3. 受講者最終発表でグループ発表を行うこと

受講者募集

研修に先立ち、令和 2 年 8 月下旬から令和 2 年 10 月中旬までの約 2 か月をかけて受講者募集を行った。8 月下旬に、全国の日本語学校 493 校を対象に Google フォームを使用して研修に関するアンケート回答を依頼した。そのうち 202 校からアンケートを回収し、その回答結果を、その後の募集活動および研修プログラムの改善に活用した。

募集活動は主に電話および訪問で行った。東京、東海、関西、九州を主な対象地域とした。また、「こくちーズプロ」を使用して Web 上での募集活動も行った。募集は令和 2 年 10 月 21 日まで行った。



募集活動の結果、最終的にブレンド型 6 名、完全オンライン型 13 名の計 19 名の受講者が応募をした。受講者の地域の内訳は、関東 6、東海 3、北陸 1、関西 6、九州 3 であった。受講者の所属機関での役職の内訳は、非常勤講師 7、常勤講師 5、主任・学科長などの役職者 6、その他 1 であった。

事例報告 1 オリエンテーション・イントロダクション

講師 | 田中裕祐（学校法人福寿プロスペラ学院ビジネス専門学校次長）

「オリエンテーション・イントロダクション」では、受講者が本研修プログラムの目的および方針を理解することができることを目的とする。これは 2019 年度事業の反省点として、研修のキーワードである「キャリア」「コミュニケーション能力」「問題解決能力」の定義の明確化およびキーワードの受講者との共有が評価委員より指摘を受けた点を踏まえたものである。

オリエンテーション・イントロダクションでは、まず研修受講の前提となる必要最低限の Zoom の操作について確認した。Zoom の基本的操作については、研修 1 週間前までに別途オンライン事前練習会を開催しすべての受講者および講師が問題なく操作できるように練習しているので、ここではその復習を実施した。

次に、受講者全員とその場にいた講師全員が自己紹介を行った。ワークショップなどで参加を確認し合う儀式をチェックインと呼ぶが、この自己紹介はチェックインとして実施したものである。自己紹介では名前、好きなこと・もの、研修をどのように過ごしたいかを 1 分程度で話してもらった。

続いて、以下の 3 つの研修理念を確認した。

- A 受講者がキャリア教育能力を身につける研修
- B 受講者が自らが学びを見出す研修
- C 受講者が学校を変える第一歩としての研修

研修の理念の確認により、受講者の中に研修をどのようにうけたらよいかの姿勢を作ること

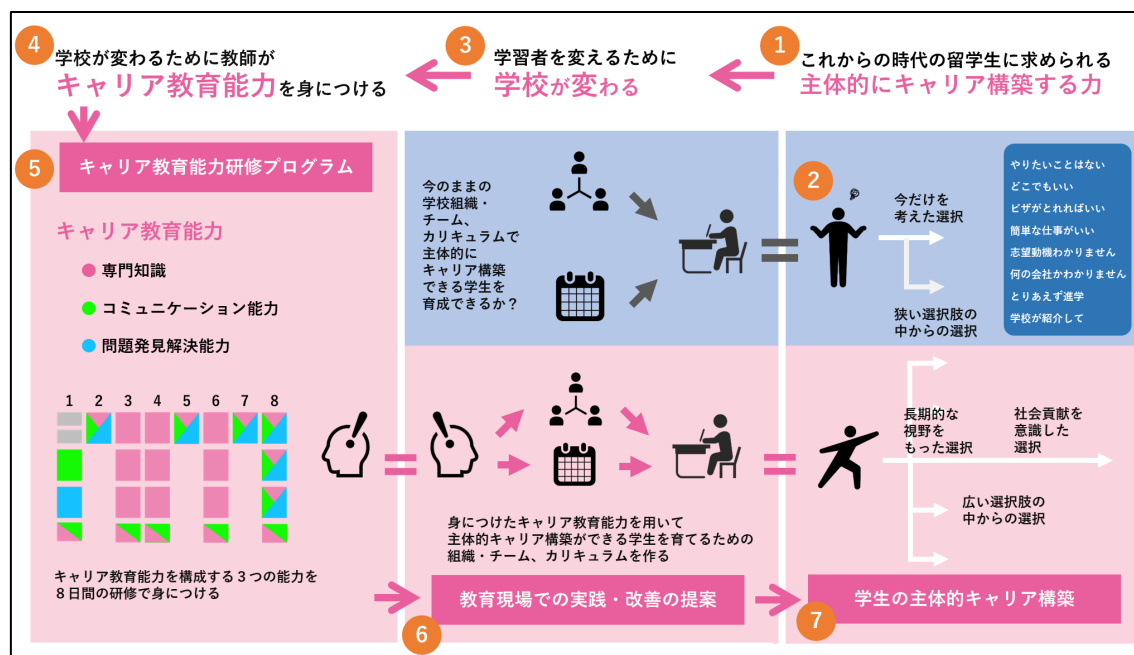
をねらいとした。また、研修理念と関連付けて、研修の背景となる育成すべき人材像や

キャリア教育能力の3つの構成要素である日本語教育の専門知識、コミュニケーション能力、

問題発見解決能力について説明をした。

その後、いつどのような科目を受講するかなど8日間の研修プログラム全体の流れ、研修1コマがどのくらいの長さで何時から始まり何時に終わるかなど1日の流れなどについて確認した。

教材例 スライド：研修の理念



教材例 スライド：オンライン研修受講チェックリスト

オンライン研修受講チェックリスト

いまの環境をチェックしましょう

- ☐ PCで参加
- ☐ 静かな場所で参加
- ☐ 安定したネット環境で参加
- ☐ イヤホン着用
- ☐ 原則カメラはオン、音声はミュート（講師の指示にしたがってください）
- ☐ Zoomは最新バージョン（バージョン5.43）
- ☐ 接続不良などのトラブル時はまずは再起動（すぐに再起動できるように準備）

事例報告2 コミュニケーション能力

講師 | 小林司朗（学校法人神戸学園理事、学校法人時習学館理事、学校法人神戸学園専門学校アートカレッジ神戸校長）

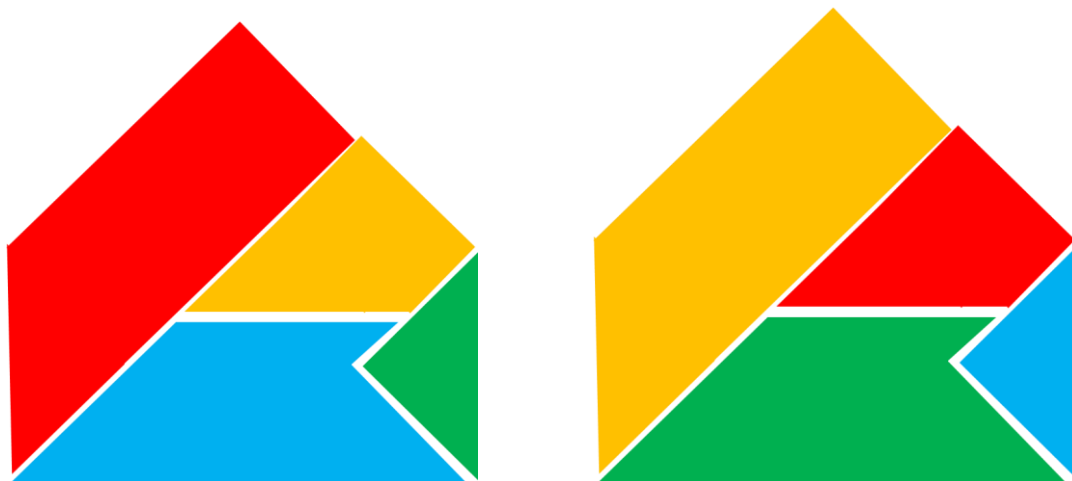
「コミュニケーション能力」では、組織としての共通ゴールへ向かう為に必要なコミュニケーションとは何か、その問題点を明確に定義し、受講者が各個人における改善点を認識し、自分自身でコミュニケーション能力を自己点検し向上することができるようになることを目標とする。キャリア教育能力の構成要素の一つであるコミュニケーション能力の向上を主眼においた科目である。

この研修では、「Tパズル」といったワークを通して、コミュニケーションの基本とコミュニケーションをとる際に必要となるマインドセットを学ぶ。つまり、知識の提供に加えて、体験型のワークを取り入れ受講者それぞれが自身のコミュニケーション上の課題に気づけるように設計されている。

Tパズルはペアワークである。一人がモデルのパズルの形を口頭で説明し、もう一人がその説明をもとにパズルを完成させる。ついたてを置くことでお互いの手元は見えないようになっており、口頭コミュニケーションを頼りにパズルを完成させる。ペアで持っているパズルの色と形の組み合わせがずれているため、その点を確認しないままワークを進めると、ミスコミュニケーションが起こるようにデザインされている。このワークにより、ミスコミュニケーションの起こるメカニズムを体感することができ、自分のコミュニケーションがどれだけ思い込みに支配されているかに気付くことができる

Tパズルワークについては、ブレンド型の受講スタイルを選択した受講者、つまり Day 1 を対面で受講した受講者のみ参加した。完全オンライン型の受講スタイルを選択した受講者、つまり Day 1 をオンラインで受講した受講者はワークに直接参加はしていない。その代わりに、オンライン受講者は複数のカメラを通して第三者の視点から Tパズルワークに取り組む受講者を観察し、どのようにしてミスコミュニケーションが発生するのかを学んだ。

教材例 T パズル



研修風景 T パズルを体験する受講者たち



事例報告3 キャリア支援の基礎

講師 | 杉山秀樹（特定非営利活動法人日本キャリア開発協会国家資格キャリアコンサルタント養成講座講師）

「キャリア支援の基礎」は、受講者が、キャリアとは何か、キャリア発達とは何かを理解したうえで、日本語学習者が「自分らしい生き方を実現していく」ために必要な、キャリア支援の考え方やかわり方ができるようになることを目的とする。本研修事業のテーマであるキャリア教育を直接的に扱った科目である。

本研修では、キャリア発達を「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」と定義した中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」を起点に、まず自分らしさ・自己概念について考えた。自己概念は経験の語りに現れることから、受講者に「最近、ころが動いた経験」を考えさせ、受講者自身の自己概念について理解を深めた。このワークに取り組むことで、自己概念とはどのようなものか、自己概念がどのようなプロセスを通して表出されるかを体感することができる。

次に、適切なキャリア形成をしていくためには肯定的な自己概念が必要であるという考えをもとに、どのようにキャリア支援・キャリア教育に取り組むのかを検討した。肯定的な自己概念へ変化・成長するために必要なこととして、①これまでの経験に対する意味付けが変わること、②これまでとは違った新しい経験をすること、③他者と交流し、他者からフィードバックを受けることの3点が挙げられる。また、キャリア支援には以下の4ステップがあり、そのステップを循環させることこそキャリア支援だといえる。

1. 自己概念の明確化（肯定的自己概念への変化・成長）
2. 自己概念に基づいた目標設定
3. 目標達成のための課題の設定
4. 行動計画の策定

このステップの循環のために必要なことは、学生の自己概念への気付きを促す関りを増やすことである。そのために教師ができることとして、①授業の中でキャリアに関するワークを通じて気付きを促すこと、②日常の交流を通じて気付きを促すことの2つの方法が考えられる。そしてこの2つの方法が日本語教師のキャリア教育の方法論となる。

上記のように日本語教師がどのようにキャリア支援・キャリア教育に取り組むのかを説明したあと、グループに分かれて「人生の満足度曲線」のワークに取り組んだ。人生の満足度曲線は生まれてから現在までの人生の満足度を曲線で表したものである。受講者は事前課題として人生の満足度曲線の作成に取り組んだ。グループワークでは、3人グループを作り、1人が自身の人生の満足度曲線について説明する発表者、2人が聞き役となった。ワークの手順は、まず発表者が人生の満足度曲線の山と谷を中心に語り、次に聞き役がその人らしさや価値観などをフィードバックする。そして発表者は聞き役のフィードバックを受けて、改めて見えてきた自分について語る。最後にグループで、キャリア教育にこのワークを取り入れるとしたらどのような点に留意すべきか話し合った。このワークは具体的な日本語教育におけるキャリア教育の方法論であるとともに、このワークを通して受講者は実際にどのように自己概念が明確になってくるのか、どのように傾聴を行うのかなどを体験することができる。

「肯定的な自己概念へ変化・成長」

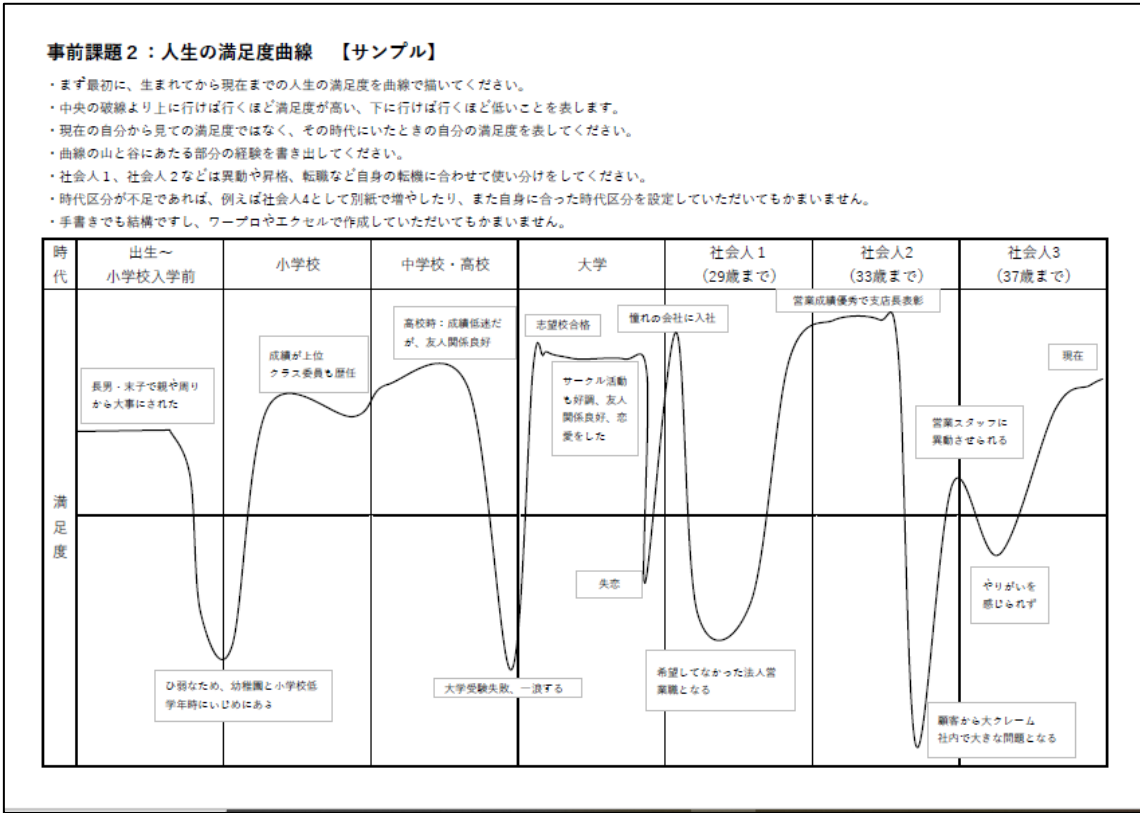
- 適切なキャリア形成をしていくためには肯定的な自己概念が必要
- 肯定的な自己概念へ変化・成長するために必要なこと
 - ①これまでの経験に対する意味付けが変わる
 - ②これまでとは違った新しい経験をする
 - ③他者と交流し、他者からフィードバックを受ける

※キャリア教育を推進する日本語教師には、学生がこのような経験をできる機会や場を得られるように意図的にかかわっていくことが求められる

「キャリア支援のためのステップ」

- キャリア支援のためのステップ
 - 1、自己概念の明確化（肯定的自己概念への変化・成長）
 - 2、自己概念に基づいた目標設定
 - 3、目標達成のための課題の設定
 - 4、行動計画の策定
- キャリア支援とはこのステップの循環をさせること
→そのためにまず必要なこと：
 - 学生の自己概念への気づきを促すかわりを増やす
 - ①授業の中でキャリアに関するワークを通じて
 - ②日常の交流を通じて

教材例 人生の満足度曲線



事例報告 4 日本語教育プログラムデザイン 2

講師 | 松崎寛（筑波大学准教授）

「日本語教育プログラムデザイン 2」は、受講者が、日本での就職を目指す学習者の発音を適切に評価し、発音指導法を導入・改善することができるようになることを目的とする。音声教育を通して、日本語教育プログラムデザイン、教育環境デザイン、目的・対象別日本語教育法など「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」で示された日本語教師【中堅】の教育内容に関わる事項を学ぶとともに、就職というキャリア教育において重要なトピックと日本語教育の接点を考察する。

対人コミュニケーションには、正確な意思疎通とともに、失礼にならない話し方が必要とされるという観点から、日本語学習者がどのような発音を身につければよいかについて教授した。「どのような発音が高い評価を受け、どのような発音が低い評価を受けるのか」という評価の観点からコミュニケーションを捉える視点は、ビジネス日本語教育などにおいても有益なものであると考えられる。

研修の前半では、どのような発音が高い評価を受け、どのような発音が低い評価を受けるのかについて、問題を発見するところからはじめた。具体的には、自然な発音の評価に大きく影響するのは子音・母音よりアクセント・イントネーション・リズムなどであること、正誤のレベルではなく情のレベルの誤解があり能力や人格の評価などにつながりうることなどを扱った。

研修の後半では、その問題の解決のために、教師がどのような点に気をつけて指導を行うのかについて扱った。具体的には自己モニターを促すフィードバックの重要性や、他の学習者の発音学習ストラテジーの活用などについて述べた。

どんな発音が低い評価を受けるのか

○発音が全く通じないのであれば、聞き返す等、時間を費やしても修復の機会が与えられるが、誤解したまま伝達が完了してしまうと、後々人間関係に軋轢が生じたり、**発話者の能力や人格の評価**にまで影を落としかねない。

土岐哲(1989)「音声の指導」
『講座日本語と日本語教育』
13、明治書院、pp.111-138.



妥当な基準を形成するには？

口の動きを**内省**させ、それを**評価**し、**共有**することで、その学習者や他学習者の発音は良くなる可能性がある

↓

- ・ 正統的音声学の基準から外れていてもそこには何らかの理がある
- ・ 他学習者がある感覚を共有できるかどうかポイント。唯一の正答はない。
- ・ 発音がよくなれば、もうけもの！



事例報告 5 研修成果発表

研修成果発表は、研修を通して学んだことを教育組織の改善や主体的にキャリア構築ができる日本語学習者の育成のために生かすことができるようになることを目的とする。具体的には、受講者たちは、研修で学んだことを教育現場にどのように還元するか、校長や入管への提案という形でまとめた。受講者は研修最終日 Day8 にグループで Zoom を用いたオンラインプレゼンテーションを実施した。

本研修では、受講者は A から E までの 5 グループに分かれて研修成果発表を行った。グループ分けは、提案先を想定した発表という研修成果発表の特性をふまえて、所属機関における役職を主な観点として運営側で行った。各グループの特徴および発表テーマは以下の通りである。

A グループ

- ・ 3 人グループ
- ・ ブレンド型の受講スタイルを選択
- ・ 非常勤および専任
- ・ 発表テーマ：進路指導に関する提案—学生のためになる進路指導—

B グループ

- ・ 3 人グループ
- ・ ブレンド型の受講スタイルを選択
- ・ 役職者含む専任
- ・ 発表テーマ：生活者へのキャリア教育

C グループ

- ・ 4 人グループ
- ・ 完全オンライン型の受講スタイルを選択
- ・ 非常勤、専任など
- ・ 発表テーマ：委員会制導入による入学時からのキャリア教育

D グループ

- ・ 4人グループ
- ・ 完全オンライン型の受講スタイルを選択
- ・ 非常勤
- ・ 発表テーマ：キャリアプランニングシート

E グループ

- ・ 5人グループ
- ・ 完全オンライン型の受講スタイルを選択
- ・ 役職者
- ・ 発表テーマ：日本に来る前に手を打つ、進学就職一体型のキャリア教育

発表の後には、各グループ1人の講師が講評を行った。講師からの講評には以下のようなものがあつた。以下の講師からのコメントからは、当研修の受講者が研修での学びを教育現場に還元できるように消化し提案という形にまとめることができていたことがわかる。

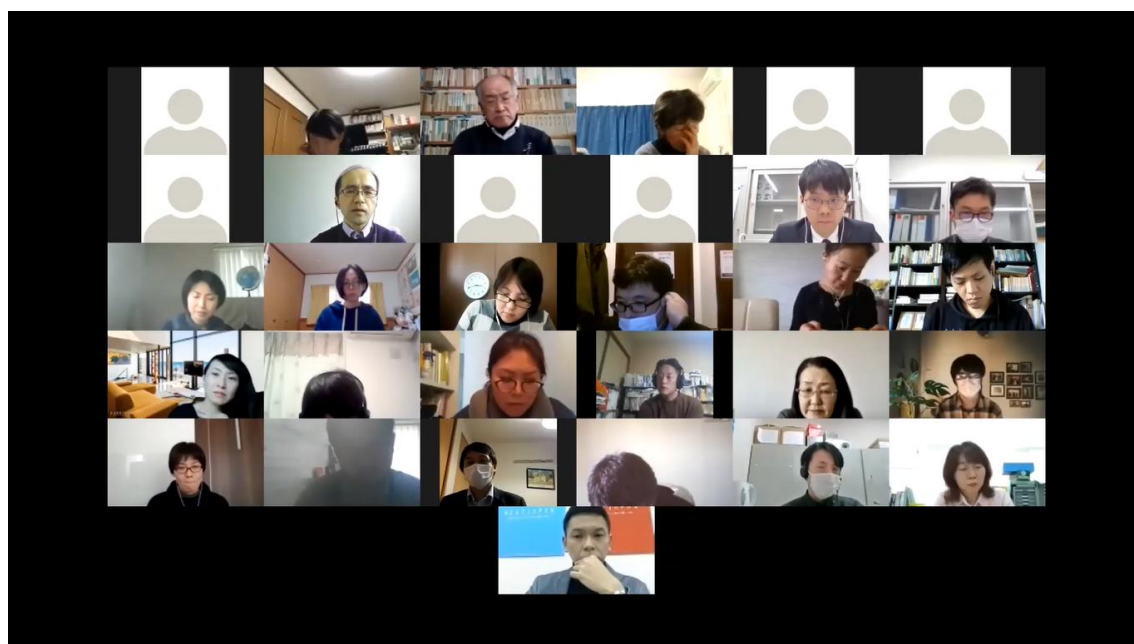
- ・ 学生が主体的に自分の進路について考える、そして教職員全員がそれを把握するという2つの論点について、具体的な提案ができており、素晴らしい発表でした。卒業したあとも留学生のキャリアが続くという視点はとても大事なものだと思います。長い目で見て自分が日本で生きていくために何をするのか、早い段階から仕組みをつくって留学生に考えさせることは非常に重要な取り組みで、大変興味深く聞かせていただきました。
- ・ 主任や校長に提案すればすぐに採用されて、すぐに実行可能なレベルのものができていると思います。カリキュラムを再構築し、既存の教育の枠組みのなかでどのようにキャリア教育を進めるかを考えてくださいました。まず、すでにあるものを使うという発想自体が素晴らしいと思いますし、またその発想をもとにより提案ができていたというのも素晴らしいと思いました。ゼロから考えて完璧なものをつくろうとすると疲弊

してしまいますが、今回の発表は労力と効果のバランスがとれていたと思います。今後は、提案していただいたものを実践してみて、具体的な情報交換が積極的にできるいいと思いました。

- ・ 素晴らしい発表でした。大きなテーマを扱った発表で、日本語教育振興協会への提案を通して、日本語教育推進法にキャリア教育の推進を組み込んでもらうことを目指すということがよくわかりました。主張の1つめ、日本に来る前に手をうつというのはよい取り組みになると思いますが、ネガティブな面にも目を向けなければならないことに気をつけてほしいと思います。また、主張の2つめ、インターンシップについて、学生にとって貴重な経験である一方、学生を無給労働者としてとらえている企業があるという現実もあります。ネガティブな面やリスクなどについての検討をさらに深めて、ぜひとも実際の提言につなげてほしいと思います。

「自分発見」		「進路サポート」	
4月		4月	進路ガイダンス
7月	フューチャー・マップ	7月	※ 7月～1月入学の学生は、 ビデオ撮影した「進路ガイダンス」を適宜視聴する
10月	人生の満足度曲線	10月	
1月		1月	キャリアコンサルタント によるガイダンス





研修の修了

受講者 19 名全員が以下の修了要件を満たして研修を修了した。

1. 対面研修およびオンライン研修に 6 日以上出席し、積極的に参加すること
2. 学びの振り返りシートおよび講師より指示のあった課題を提出すること
3. 受講者最終発表でグループ発表を行うこと

研修最終日 Day 8 に、修了式を実施し、要件を満たした受講者の修了を認めた。Day 8 は受講者全員がオンラインで参加したため、修了証は後日郵送した。修了式の中では、研修を視察した事業評価委員の先生方から受講者にむけた総評をいただいた。また、受講者全員に本研修の感想を述べてもらい研修プログラミングを締めた。

その他

研修 Day 2 の研修成果発表の準備ゼミの終了後、任意参加のオンライン懇親会を開催した。懇親会の目的は、異なる教育機関から集まった受講者間の親睦を深めることである。受講者 16 名に加えて、委員・講師 6 名が参加した。Zoom のブレイクアウトセッションの機能を用いて 4 人程度のグループを作り懇談した。ブレイクアウトセッションは 1 回 15 分、計 3 回実施した。3 回はそれぞれできるだけ異なるメンバーとグループを作り、多くの参加者と話す機会ができるようにした。

3-4 事業全体の評価

事業評価検討委員会（プロセス評価会議）

事業全体の成果の評価は、日本語教育・キャリア支援等の専門家からなる評価委員会においてプロセス評価とアウトカム評価を行った。

プロセス評価会議では、教育課程の検討・教材開発・研修が計画通りに進んだかを評価した。プロセス評価は事業途中の形成的評価としても用いる。プロセス評価会議で各回の主な議事は以下の通りである。

第1回 2020/08/28

- ・ 受講者募集
- ・ カリキュラム、ゼミ科目

第2回 2020/10/13

- ・ 研修の理念
- ・ 研修成果発表とその準備ゼミ
- ・ アウトカム評価の方法

事業評価検討委員会（アウトカム評価会議）

アウトカム評価では、本事業の以下の3つの目的の達成状況、2019年度事業の課題に対する令和2年度事業の対応などについて評価を行った。

- (1) 日本語教師としての高度な専門的知識をもち、そのうえで日本語教育とキャリア教育を関連付けて考えることができる
- (2) 日本語学習者のキャリアを考慮した教育プログラムの策定や体系的な指導を行うことができる

- (3) 教育現場における問題発見解決に取り組むために必要なコミュニケーション能力
および問題発見解決能力をもつ

評価は研修の視察や研修受講者へのアンケート結果などをもとに質的および量的に行う。アウトカム評価会議で各回の主な議事は以下の通りである。

第1回 2021/02/24

- ・ アウトカム評価の目的・進め方
- ・ 事業評価委員による研修視察報告

第2回 2021/03/03

- ・ 受講者アンケート結果の考察
- ・ 事業報告書案検討

受講者アンケート

研修最終日 Day 8 終了後、受講者を対象として、研修全体の評価を求めるアンケートを実施した。詳細は以下の通りである。

実施日 2020年2月17日~24日

目的 研修の目的の達成度、受講者の満足度等の評価

対象 研修受講者 19名

方法 研修 Day8 終了後、Google Forms を使用して実施

選択式 11 問（設問に対して 1（当てはまらない）~4（当てはまる）を選択）

記述式 6 問

アンケート項目

(選択式)

1. 本研修プログラムは全体的に満足できるものだった。
2. 研修内容は十分に理解できた。
3. 研修プログラムは、キャリア教育能力のうち「中堅日本語教師に求められる専門知識」を身につけるために役立つものであった。
4. 研修プログラムは、キャリア教育能力のうち日本語教師の「コミュニケーション能力」を向上させるために役立つものであった。
5. 研修プログラムは、キャリア教育能力のうち日本語教師の「問題発見解決能力」を向上させるために役立つものであった。
6. 研修プログラムは、受講者の教育現場の問題発見解決につながるものであったと思う。
7. 研修プログラムは、主体的にキャリア構築ができる留学生の育成につながるものであったと思う。
8. 研修で学んだことや研修自体について、勤務先の同僚や上司と情報共有を行った。また、これから行う予定がある。
9. 研修の日程は参加しやすいものだった。
10. 研修の方法（ブレンド型、オンライン型）は参加しやすいものだった。
11. 研修の申し込み方法はわかりやすかった。

(記述式)

1. 本研修プログラムを通して得た一番の学びを教えてください。
2. 本研修で学んだことを、これからどのように学校の改善につなげていくつもりか、考えを教えてください。すでに取り組みを始めている場合は、それをご記入ください。
3. 本研修プログラムのよかった点を教えてください。（運営・研修内容・研修方法など研修全般にかかわることや、学びの共有ゼミ・研修成果発表とその準備ゼミ・懇親会など各構成要素について）

4. 本研修プログラムの改善点を教えてください。(運営・研修内容・研修方法など研修全般にかかわることや、学びの共有ゼミ・研修成果発表とその準備ゼミ・懇親会など各構成要素について)
5. 研修で扱ったものでさらに深く学びたい内容や、研修で新しく取り上げてほしい内容があれば教えてください。
6. その他お気づきの点等がございましたらご記入ください。(自由記述欄)

4. 事業の成果

アンケート結果

研修最終日 Day 8 終了後、受講者を対象として、研修全体の評価を求めるアンケートを実施した。対象は研修受講者 19 名、回収 18 名、回収率は 94.7%だった。

選択式評点

		当てはまらない ← → 当てはまる					
		平均 (点)	1点 (人)	2点 (人)	3点 (人)	4点 (人)	合計 (人)
1	本研修プログラムは全体的に満足できるものだった。	3.94	0	0	1	17	18
2	研修内容は十分に理解できた。	3.72	0	0	5	13	18
3	研修プログラムは、キャリア教育能力のうち「中堅日本語教師に求められる専門知識」を身につけるために役立つものであった。	3.89	0	0	2	16	18
4	研修プログラムは、キャリア教育能力のうち日本語教師の「コミュニケーション能力」を向上させるために役立つものであった。	3.78	0	1	2	15	18
5	研修プログラムは、キャリア教育能力のうち日本語教師の「問題発見解決能力」を向上させるために役立つものであった。	3.94	0	0	1	17	18
6	研修プログラムは、受講者の教育現場の問題発見解決につながるものであったと思う。	3.83	0	0	3	15	18
7	研修プログラムは、主体的にキャリア構築ができる留学生の育成につながるものであったと思う。	3.72	0	0	5	13	18
8	研修で学んだことや研修自体について、勤務先の同僚や上司と情報共有を行った。また、これから行う予定がある。	3.17	2	1	7	8	18
9	研修の日程は参加しやすいものだった。	3.06	0	5	7	6	18
10	研修の方法（ブレンド型、オンライン型）は参加しやすいものだった。	3.89	0	0	2	16	18
11	研修の申し込み方法はわかりやすかった。	3.78	0	0	4	14	18

(参考 2019 年度事業アンケート結果)

		当てはまらない ← → 当てはまる							
		平均 (点)	1点 (人)	2点 (人)	2.5点 (人)	3点 (人)	4点 (人)	無回答 (人)	計 (人)
1-1	研修は満足できるものだった。	3.7	0	0	1	5	15	1	22
1-2	研修内容は十分に理解できた。	3.5	0	0	1	8	12	1	22
1-3	研修は学習者のキャリアを考えた日本語教育を行うために役立つものだった。	3.3	1	3	0	7	11	0	22
1-4	研修は研修受講者の問題解決能力を向上させるために役立つものだった。	3.7	0	2	0	3	15	2	22
1-5	研修は研修受講者のコミュニケーション能力を向上させるために役立つものだった。	3.7	0	0	0	6	16	0	22
1-6	研修をきっかけに、日本語教育やキャリアについて、新しいものの見方を知ることができた。	3.8	0	1	0	3	18	0	22
1-7	研修をきっかけに、教育実践などの行動を変化せることができた。または、今後できると思う。	3.6	0	1	0	6	15	0	22
1-8	宿題は現場の問題解決について考えるうえで役に立った。	3.3	1	3	0	7	11	0	22
1-9	研修について上司や同僚と情報共有を行った。	2.8	4	3	0	8	7	0	22
1-10	研修の日程は参加しやすいものだった。	3.1	0	5	0	9	8	0	22
1-11	研修の応募方法はわかりやすかった。	3.0	0	6	0	10	6	0	22

- (1) 研修全体に関わる設問 1, 2 の評点はそれぞれ 3.94, 3.72 であった。2019 年度の対応する設問 1-1, 1-2 の評点は 3.7, 3.5 であった。総評として令和 2 年度事業は 2019 年度事業に比べてよりよいプログラムになっていたと考えられる。
- (2) キャリア教育能力を構成する「日本語教育の専門知識」「コミュニケーション能力」「問題発見解決能力」に関わる設問 3, 4, 5 の評点はそれぞれ 3.89, 3.78, 3.94 と高かった。
- (3) 受講者の教育現場の問題発見解決につながるかどうかに関わる設問 6, 7 の評点はそれぞれ 3.83, 3.72 であった。2019 年度の対応する設問 1-7, 1-8 の評点は 3.6, 3.3 であった。
- (4) 研修内容の現場への共有に関わる設問 8 の評点は 3.17 であった。2019 年度の対応する設問 1-9 の評点は 2.8 であった。今年度は研修成果発表を「提案」という形式にして現場への還元を意図していたが、昨年度と同様に共有をしない受講者が一定数いた。評点 1 をつけた方のうち 1 名は常勤、1 名は非常勤、評点 2 をつけた方は現在教務をされていない方であった。

- (5) 参加のしやすさに関わる設問 9, 10 の評点はそれぞれ 3.06, 3.89 であった。2019 年度の対応する設問 1-10 の評点は 3.1 であった。オンラインでの参加がよい評価を得ている。
- (6) 応募に関わる設問 11 の評点は 3.78 であった。2019 年度の対応する設問 1-11 の評点は 3.0 であった。評点が大幅に改善している。応募方法に大きな変更はなかったが、2019 年よりも多くの担当者が募集活動をしたため結果的に丁寧な対応につながったと思われる。

以下は受講者を非常勤であるか常勤であるかで平均点を算出した表である。設問 2 は常勤で特に高い評点がでているがおおむねどの項目も同様の傾向だと解釈できる。

		全体平均 (点) n=18	非常勤平均 (点) n=6	常勤平均 (点) n=11
1	本研修プログラムは全体的に満足できるものだった。	3.94	4.00	3.91
2	研修内容は十分に理解できた。	3.72	3.50	3.82
3	研修プログラムは、キャリア教育能力のうち「中堅日本語教師に求められる専門知識」を身につけるために役立つものであった。	3.89	3.83	3.91
4	研修プログラムは、キャリア教育能力のうち日本語教師の「コミュニケーション能力」を向上させるために役立つものであった。	3.78	3.83	3.73
5	研修プログラムは、キャリア教育能力のうち日本語教師の「問題発見解決能力」を向上させるために役立つものであった。	3.94	3.83	4.00
6	研修プログラムは、受講者の教育現場の問題発見解決につながるものであったと思う。	3.83	3.83	3.82
7	研修プログラムは、主体的にキャリア構築ができる留学生の育成につながるものであったと思う。	3.72	3.67	3.73
8	研修で学んだことや研修自体について、勤務先の同僚や上司と情報共有を行った。また、これから行う予定がある。	3.17	3.17	3.27
9	研修の日程は参加しやすいものだった。	3.06	3.17	3.00
10	研修の方法（ブレンド型、オンライン型）は参加しやすいものだった。	3.89	3.83	3.91
11	研修の申し込み方法はわかりやすかった。	3.78	3.83	3.73

記述式回答

各質問に対する答えは、以下のように要約できる。詳細は報告書末尾の資料を参照されたい。

1. 本研修プログラムを通して得た一番の学びを教えてください。
 - (1) キャリア教育への直接的な言及、キャリア教育能力（専門知識・コミュニケーション能力・問題発見解決能力）への言及が多く見られた。
 - (2) 日本語学校、日本語教師の役割の拡大への言及が見られた。
 - (3) 日本語教師自身のキャリアへの言及も見られた。
2. 本研修で学んだことを、これからどのように学校の改善につなげていくつもりか、考えを教えてください。すでに取り組みを始めている場合は、それをご記入ください。
 - (1) 研修成果発表に関する言及が多く見られた。研修と学校の改善との接点として研修成果発表を設定した成果がうまく回答に表れていると思われる。
 - (2) 具体的なキャリア教育のアイデアの記述も見られた。
 - (3) 非常勤という立場から、本研修が意図していた学校の改善への否定的な意見もあった。
3. 本研修プログラムのよかった点を教えてください。（運営・研修内容・研修方法など研修全般にかかわることや、学びの共有ゼミ・研修成果発表とその準備ゼミ・懇親会など各構成要素について）
 - (1) 全体的に高評価を得ることができた。
 - (2) グループ活動、ゼミ科目への肯定的な評価が多く得られた。
 - (3) オンライン研修についての肯定的な評価もあった。
 - (4) 運営体制に対しての肯定的な評価もあった。
4. 本研修プログラムの改善点を教えてください。（運営・研修内容・研修方法など研修全般にかかわることや、学びの共有ゼミ・研修成果発表とその準備ゼミ・懇親会など各構成要素について）

- (1) ボリュームの多さを改善点として挙げる受講者がいた。
 - (2) オンライン研修の方法、オンライン研修の長さを改善点として挙げる受講者がいた。
 - (3) 学びの共有ゼミが不要だという意見もあった。
5. 研修で扱ったものでさらに深く学びたい内容や、研修で新しく取り上げてほしい内容があれば教えてください。
- (1) キャリア教育についてより深く学びたいという声が多くあった。
 - (2) ICT についてより深く学びたいという声も多くあった。
6. その他お気づきの点等がございましたらご記入ください。(自由記述欄)
- (1) 受講者同士の交流がよかったとの声があった。

事業評価委員からの評価

事業評価委員会（アウトカム評価会議）において、事業評価委員より以下のような評価・コメントをもらった。

- (1) 全体的に昨年と比べて改善されていた。キャリア教育能力の定義が明確になっていた。
- (2) 研修全体の目標や方向性が明確になり、講師とも目的・目標共有ができていた。研修の理念が共有できており一つのコースになっていた。
- (3) 学びの共有ゼミはよかった。コミュニケーション能力、問題発見解決能力の観点からも効果的なものであったし、多くのインプットを得た後の頭の整理の時間としても機能していた。
- (4) オンライン研修について、参加のしやすさなどの利点が見えた一方で、受講者の学びの様子やの把握や雑談といった部分で対面に劣る部分が見られた。
- (5) 本研修の出発点である「主体的なキャリア構築ができる留学生」の育成についてより具体的にやる余地がある、留学生のどのような側面を伸ばすのかなどの視点を持つとよい
- (6) 専門知識をどう使っていくかが薄いと思った、「使いたいです」で終わってしまう講義があったのが課題、オフィスアワーを設けるなどサポート体制を作れるとよい

本研修事業の成果と課題

事業評価委員の評価および受講者アンケート結果から、本研修事業の成果と課題を以下のようにまとめた。

成果

(1) 研修の目的・理念の明確化

2019年度の課題をうけ、研修の目的・理念を再検討した。2019年度事業では、研修の主要概念であるキャリアやコミュニケーション能力といった概念の定義が十分でなく、受講者や講師に共通のイメージが形成できていなかった。よって、コンセプト自体は評価を受けたものの、研修の成果には十分につながらなかった。

本事業では、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」の教育内容をキャリア教育の観点から解釈するという2019年度の研修テーマは保ちつつ、これからの日本語教育で育成すべき学習者像から出発し本研修の位置づけを明確にした。描いた学習者像である「主体的にキャリア構築ができる学習者」は研修成果発表でも頻繁に受講者に引用されており、受講者の観点からも妥当性のあるものだったと思われる。また「主体的にキャリア構築ができる学習者」を意識した発表は、研修目標のひとつである「(1) 日本語教師としての高度な専門的知識をもち、そのうえで日本語教育とキャリア教育を関連付けて考えることができる」ことを達成するために、本研修プログラムが有効であったことを示唆する。

また、日本語教師が身につけるべき能力として、キャリア教育能力というものを設定し、その具体的な構成要素として、日本語教育に関する専門知識・コミュニケーション能力・問題発見解決能力の3つを想定した。これにより受講者の目標や研修の各科目の位置づけが明確になった。さらに、受講者自ら学びを見出す研修という理念にもとづき学びの共有ゼミを設定するなど、コンセプトの明確な研修プログラムが完成したと思われる。

以上のような取り組みをとおして、受講者・講師ともに、キャリアやコミュニケーション能力といったキーワードに対して共通のイメージを持ったうえで研修が実施できたと思われる。

(2) 研修受講者の成長

アンケートへの回答などから、研修を通して中堅日本語教師に求められる知識の習得のみならず、日本語教育とキャリア教育を関連付けて考えることができるようになったり、日本語教師の役割をより大きくとらえられるようになったりした受講者が多く見られた。

(アンケートへの回答例)

- ・ (本研修プログラムを通して得た一番の学びを教えてください)「キャリア教育」そのものの見方、考え方、知識です。
- ・ 日本語教師の役割は日本語の指導だけにとどまらない。時代の流れや変化に柔軟に対応できるよう、幅広い知識や技術を身に付けなければならない。

(3) 研修内容の現場への還元

アンケートへの回答などから、研修で学んだことを自身の教育現場に還元しようという受講者が多く見られた。研修を受講して終わりではなく、日本語教育機関の教育水準の向上につながる研修プログラムであったと思われる。このことから、本研修プログラムは、本研修の目標である「(2)日本語学習者のキャリアを考慮した教育プログラムの策定や体系的な指導を行うことができる」ことにつながるものであったと考えられる。

(アンケートへの回答例)

- ・ グループで取り組んだ課題解決案を本学学内でも情報共有し、提案するつもりです。
- ・ 進路指導の際、今回の研修で紹介された各種シートを微調整を加えて使いたいと思います。生活者向けのプランについても採用されるかどうかは別として上司に提言してみたいと思います。

(4) 広く受講者を集めた研修の実施

本研修ではオンラインで研修を実施することで日本全国から受講者を集めることができた。受講者の地域の内訳は、関東 6、東海 3、北陸 1、関西 6、九州 3 であり、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改定版」で示された「日本語教育人材の養成・研修の在り方及び教育内容」の円滑な普及に対して貢献ができたと思われる。また、

受講者 19 名全員が修了した点も普及への貢献度の高いプログラム開発ができたことの証左となると思われる。

課題

(1) オンライン研修の改善

オンライン研修については、参加のしやすさという面では肯定的な評価を受けた。一方で、グループワークや対話など研修の方法の観点、および長時間の視聴による疲労など研修スケジュールのなどの観点から改善点が見られた。本研修の目標のひとつが「(3) 教育現場における問題発見解決に取り組むために必要なコミュニケーション能力および問題発見解決能力をもつ」というようにコミュニケーション能力に焦点を当てたものであったが、オンラインを通した目標の達成という点で課題が残った。

(オンライン研修 継続したいとirikumi)

- ・ 講師・受講者に対する研修前の事前接続確認・練習
- ・ 毎回のオンライン研修受講上の注意点のガイダンス
- ・ ビデオ録画、復習動画
- ・ Google Drive などの活用

(オンライン研修改善案)

- ・ ワークのグループ分けなど事前準備を入念に行う
- ・ グループワークで講師が巡回する場合は理由を明示したうえで行う
- ・ グループワークは講師が巡回しない時間もつくる
- ・ 雑談の機会などを意識して設ける
- ・ 長めの休憩、細かい休憩を入れる
- ・ トラブルシューティング手順の見直し

(2) 「主体的なキャリア構築ができる日本語学習者」の育成に関する具体化

今年度の研修では、キャリア教育能力の設定により、受講者が身につけるべき能力として「日本語教育の専門知識」「コミュニケーション能力」「問題発見解決能力」の3つがあることを明確にしたが、ではそのような能力を身につけたあとに、具体的にどのような教育実践を行えば主体的なキャリア構築ができる日本語学習者を育成することができるかまでは十分に扱うことができていなかった。

井上講師の研修で、杉山講師の研修内容を引用し、なぜサービス・ラーニングが日本語学習者のキャリア構築に寄与するかの説明があったが、そのような観点を深められるとよいのではないだろうか。

(3) キャリア教育に直接かわらない専門知識をどう現場に還元するか

今年度の研修では、キャリア教育やキャリア教育能力という研修のテーマに関しては多くの受講者が終始着目しており、研修成果発表における具体的な提案まで到達することができていた。一方で、各研修で扱われたキャリア教育と直接的に関わらない専門知識については、使いたいという気持ちだけで終わってしまっているものもあるようだった。コーパス言語学や日本語教育施策・外国人施策などの専門知識は、中堅日本語教師にとってはもちろん、キャリア教育を考えるうえでも重要な意義をもつ科目だと考えられる。専門知識についてどのように現場に還元するか、どのようにキャリア教育に結びつけるかなどの考えを深める仕掛けが必要である。

5. まとめ

本事業では、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改訂版」で示された日本語教師【中堅】研修における教育内容をキャリア教育の観点から解釈し、以下の3つの目標を掲げた。

- (1) 日本語教師としての高度な専門的知識をもち、そのうえで日本語教育とキャリア教育を関連付けて考えることができる
- (2) 日本語学習者のキャリアを考慮した教育プログラムの策定や体系的な指導を行うことができる
- (3) 教育現場における問題発見解決に取り組むために必要なコミュニケーション能力および問題発見解決能力をもつ

本研修事業の成果としては、以下の4点が挙げられる。

- (1) 研修の目的・理念の明確化
- (2) 研修受講者の成長
- (3) 研修内容の現場への還元
- (4) 広く受講者を集めた研修の実施

一方で、本研修事業の課題としては、以下の3点が挙げられる。

- (1) オンライン研修の改善
- (2) 「主体的なキャリア構築ができる留学生」の育成に関する具体化
- (3) キャリア教育に直接かかわらない専門知識をどう現場に還元するか

資料 受講者アンケートの回答（記述式）

設問 1 本研修プログラムを通して得た一番の学びを教えてください。

（キャリア）

- a. 日本語教師としての教育の視点の他学校経営の視点からも学びができたことが何より大きかったです。
- b. 自分が本当になりたい自分を、学習者・自分自身が知るための方法や自己肯定などの必要な概念を学べたこと。
- c. キャリア教育の重要性和現場への早急な落とし込みについて。
- d. 「キャリア教育」そのものの見方、考え方、知識です。
- e. 留学生に対する就職支援やその関連業務についてたくさんの学びがあった(研修に参加されたはあの先生方と意見交換、交流することができた)、
- f. 学生・自分のキャリア開発を考えるきっかけになったこと
(コミュニケーション能力、問題発見解決能力、学びを見出す)
- g. コミュニケーションとは何か。
- h. コミュニケーション能力の構築
- i. チームで研究発表の準備をする難しさと楽しさを学びました。
- j. 問題解決能力を養えたことです。
- k. リフレクションの重要性

（日本語教師の役割）

- l. 日本語学校は日本語を教えるだけでいいのだろうか。
- m. 日本語教師の役割は日本語の指導だけにとどまらない。時代の流れや変化に柔軟に対応できるよう、幅広い知識や技術を身に付けなければならない。

（経営・法律）

- n. 日本語教育機関の教務以外の実務的な側面
(ア) 日本語教育に関係する法律、また、運営にかかる経費などを具体的に知ることができた。

設問2 本研修で学んだことを、これからどのように学校の改善につなげていくつもりか、考えを教えてください。すでに取り組みを始めている場合は、それをご記入ください。

(研修成果発表の内容に言及)

- a. グループで取り組んだ課題解決案を本学学内でも情報共有し、提案するつもりです。
- b. 進路指導の際、今回の研修で紹介された各種シートを微調整を加えて使いたいと思います。生活者向けのプランについても採用されるかどうかは別として上司に提言してみたいと思います。
- c. 成果発表で行ったことをベースにして、本校のホームルームの時間を見直そうと思い、カリキュラムの見直しと再構築を行っているところです。でき次第、上に提案をし教務と事務双方に共有をしていきたいと思っています。
- d. 主任や校長に対して、コースデザインやカリキュラムに関して、積極的に意見を言うことが大切だと思いました。
- e. 主任に提案 自分の授業で取り入れる 他の先生とのシェアなど

(キャリア教育、キャリア教育能力に言及)

- f. 入学時から卒業就職後も視野に入れた長期的就職支援カリキュラムの構築と、情報共有シートの導入を考えている。
- g. 入学時からのキャリアデザインに力を入れられるよう PDCA を回していきたい。
- h. 来日前に zoom での OB 面談を実施するなど、早い段階からのキャリア教育をカリキュラムに組み込んでいきたい。
- i. 今回学んだことをもとに学校のキャリア教育を見直し、学生が自分でキャリアデザインできるように指導していきたい。
- j. 問題発見能力と解決能力、教員育成、リカレント教育
- k. 自校のキャリア形成学習を強化します。すでにそういった取り組みをしていましたが、強化します。
- l. 今後の配属によるが進学指導に関する業務でこれらの知識を活かしたい
- m. ① 問題点の発見 (+ 蓄積) と分析 (+ 準備)、② 個人でもできることを考え、授業で学生に還元 (例; 働きかけ、意識の促し etc...)

(その他)

- n. 非常勤という立場、学校が大規模ではないことから考えると、今回発表で扱ったようなキャリア教育を実際にしていくことは難しいが、今回教わった発音指導、コーパスを使った語彙の意味の分析は授業内や授業の準備の段階で取り入れている。
- o. できるところから取り入れてだんだんできることを増やす

設問3 本研修プログラムのよかった点を教えてください。(運営・研修内容・研修方法など研修全般にかかわることや、学びの共有ゼミ・研修成果発表とその準備ゼミ・懇親会など各構成要素について)

(全般、研修科目)

- a. 全体的にどちらの内容とも新たな学びになったことがとても良かったです。
- b. 講師の方々の分野が多岐にわたっており大変勉強になった。
- c. すべてよかったと思います。
- d. 一つ一つが貴重な学びになりましたので、全てに感謝しています。点でお伝えできず、申し訳ありません。
- e. 研修内容はどれも業界最先端、そのまま独立して何回かにわけて研修回があってもおかしくないレベルのものでした。
- f. また、講義内容も地方ではなかなか聴講することはできない充実した内容で、非常に興味深いものだった。
- g. キャリアについて考えるだけでなく、音声や ICT など教務の基盤である授業を見つめなおす機会もあったこと。
- h. 講義内容が充実していた

(グループ活動、ゼミ)

- i. 上からの意見だけでなく、横との繋がりを持てたことは有意義でした。
- j. 研修内容が豊富で、聞き逃しをしないようにしていたが、集中がきれることもあり、それを学びの共有ゼミで話し合うことで、自分の学びを振り返りながら、他の方の学びを聞くことでフォローできたのがよかった。
- k. 毎回学びの共有ゼミでほかの人の意見を聞くのも新鮮でした。研修成果発表は準備ゼミがあったので助かりました。
- l. ただ講義を聴くだけでなく、グループに分かれての活動や発表の機会もあり、受講者同士でも刺激を受けられたのが良かった。
- m. 学びの共有ゼミのおかげで講義の内容を自分の中に取り込むことが出来ました。また、共有ゼミを通じて参加者と交流ができたのも良かったです。
- n. 様々な場所、立場の先生方と交流が持てたこと。

- o. 学んだことをそのままにせず、成果発表で一つの形を作れたこと。
- p. グループワークが充実していた、振り返り時間が充実していた、受講者同士の交流機会が多かった
- q. 学んだことを生かして発表の場があったこと 各講師の方が後からスライドなどをシェアしてくださったこと
(オンライン研修)
- r. オンライン開講は移動時間がかからない点、全国どこの地域から参加できる点が一番良かった。
- s. オンラインの講義も、課題もとても内容が濃く勉強になった。
(運営)
- t. 運営がとてもしっかりしており、スムーズに進められていた。
- u. 運営チームのチームワークや関係のよさが伺えました。
- v. 運営、内容共に素晴らしく、オンラインでも充分学ぶことができました。

設問4 本研修プログラムの改善点を教えてください。(運営・研修内容・研修方法など
研修全般にかかわることや、学びの共有ゼミ・研修成果発表とその準備ゼミ・懇親会など
各構成要素について)

(研修内容)

- a. 今後求められている新たな教授パラダイムに対し、日本語教育の日本語教師として備えるべき実践力についても学べたら大変有難く存じます。
- b. 講義内容が選択制であったり、単位制であったら、場所も時間も問わず学べると思います。最後の共有は必要だと思うので、難しいかもしれませんが・・・

(ボリューム)

- c. 課題の数や分量がかなり負担になった。フルタイムに近い就業スタイルだと、課題を見るだけで精一杯で何かを提出するのは時間的に無理があった。
- d. ありがたいごとですが、内容が充実しすぎていて、急いですすめられたこと。オンラインでは、ついていけないときに、伝えにくかったです。
- e. 時間が足りませんでした。全ての学びが深く、消化するのに時間がかかりました。

(オンライン研修)

- f. オンライン運用だから仕方がないのですが、もっとアクティビティが多様にあれば良かったと思います。
- g. 長時間画面を見続けるのは目がかなり疲れ、見ていて頭痛がしてくることがよくあった。時間は短くていいので、もう少し短い間隔で休憩する時間が欲しかった。
- h. 朝10時から夕方までずっとPCの画面を見続けたため、眼精疲労や頭痛に悩まされた。
- i. オンラインであったのも仕方ないと思うのですが、参加された先生方ともっと深くコミュニケーションを取りたかったです。発表グループが同じ先生とは深くお話できたのですが、教務主任をやられている先生方などと深くお話をしたかったと思いました。成果発表も同じくらいの経験の先生同士だから見えた共通の課題もありましたが、少し経験が違う先生方と組むことで見える課題もあるのかなと発表を聞いていて思いました。

(グループ活動、ゼミ)

- j. 途中からご配慮いただき、ありがとうございました。やはり発言や発表（順番含む）が偏らないようになることでしょうか。自分ばかりに発表が当たるのも、もちろん嫌ですが、せっかくの研修ですので、他の受講者の方々の話し方や考え方、視点等含め、この機会を通してたくさんのことを学びたいと思いました。
- k. 学び共有の時間は必要なかったと思う。個人的に振り返ることで十分だと感じた。
(その他)
- l. 最終日に懇親会があったらもっとよかったと思います。今回の研修は大変満足しているのですが、各研修の復習用ビデオ配信の期間をもう少し長めにいただけたら助かったかと思います…。
- m. なし
- n. 本研修には zoom だったからこそ参加できたのだと思う。勿論対面型でなければ味わえないものもあるが、グループワークも時間管理がしっかりされており、全てにおいて無駄なく効率的でよかったと思う。講師の先生方をはじめ、企画、進行全てに携わられた運営スタッフの方々のご尽力の賜物だと感謝しかなく、特に改善点は浮かばない。
- o. 一度目の懇親会ではまだ打ち解けていなかったこと、非常勤の方も多かったこともあり、連絡先の交換がしにくかったです。最終日あたりに連絡先の交換をする機会を作ったり、LINE グループのようなものがあれば、より多くの人と研修後も協力や情報共有ができてもっと良かったと思います。
- p. 中休憩が短かったことです。

設問5 研修で扱ったものでさらに深く学びたい内容や、研修で新しく取り上げてほしい内容があれば教えてください。

a. キャリア支援・キャリア教育 6

- i day3の杉山先生の講義が興味深く心に残った。先生のカウンセリングで相談者の方がどのように変わっていかれたのか等、またはご苦労話など、もっとお聞きしてみたいと思った。そこから学生との関わり方のヒントが得られるように感じた。
- ii 就職希望の留学生受け入れ企業との連携について日本語学校ができること
- iii 個人的には、今回は「キャリア支援の基礎」を、さらに深く学びたいと思いました。
- iv 日本語教師としてのキャリアの歩み方

b. ICT 5

- i インストラクショナルデザイン（ICTの活用）、
- ii ICTを用いたテストや教材の作成、進路指導のツール作成などを体験出来たら、うれしいです。

c. 在留資格 2

d. 情報共有 2

- i さらに深く学びたい内容は、井上講師の講義内容の中にあったようなアイデアや理論の実践例の紹介を通した結果の共有です。
- ii 日本語教育機関の横のつながりがもっと持てる何か（情報共有）など。

e. 経営 2

- i 柳田先生からの講義が刺激的だったことから、日本語教育におけるお金事情に関しては、とても興味あるので、より深く取り上げてほしいです。
- ii 運営にかかるコスト

- f. 文法等の言語学の専門的なことをもっと学びたい
- g. シラバス活用
- h. どれもこれも深く学びたい分野ではありますが、個人的に興味があるのはコミュニケーション能力の向上
- i. 卒業後の学生(就労者)に対して、企業や地域社会と協力して何ができるかを考えたい。
- j. 今後の研修で新しく取り上げていただきたい内容は日本語学校の教育の質改善の成功事例です。
- k. 自己分析
- l. 問題発見解決能力など
- m. 学習タイプ
- n. NLP

6 その他お気づきの点等がございましたらご記入ください。(自由記述欄)

- a. 特にありません、全体的によくなられた内容だったと感じています。4ヶ月にわたり大変お世話になりました。ありがとうございました。
- b. 特にありません。
- c. 運営関係者の皆様のスムーズな運営に対して、感謝しております。ありがとうございました。また、対面のセミナーでは、なかなか知り合うことができなかったと思われる、いろいろな地域の先生方とお会いできたことはとても良かったです。
- d. 全てのスタッフの方々に、心から感謝申し上げます。申込時から、日頃のご連絡、研修時のご対応含め、最初から最後まで素晴らしくご対応くださり、本当にありがとうございました。"
- e. 本当に素晴らしい時間をありがとうございました！
- f. 研修が終わった今、ホッとしたのと寂しさが入り混じった気持ちです。始まる前は緊張していましたが、回を重ねる毎にワクワクして楽しかったです。いつの日かどこかで皆様方とお会いできる機会ができれば嬉しいです。有り難うございました。
- g. 年度の後半という忙しい時期にもかかわらず、臨機応変かつきめ細やかな対応をしていただきありがとうございました。
- h. ありがとうございました。
- i. せっかく、学校に提案という名目で発表をしたので、提案したあとの様子研修をうけて、自分の変化などをシェアする会がしたかった。半年後などに1回、シェア会などがあれば良かったです。オンラインで、ラインのアドレスなどを交換できなかったのが残念でした。研修は充実していて、学びの多い時間となりました。研修中から自分に変化が見られましたが、新たな課題が生まれることも多く、継続が大切だと感じています。仲間とシェアすることで、学び続けたいと思っています。本当にありがとうございました。
- j. ほんとうにありがとうございました。「学ぶ」というという時間が貴重な時間でした。

田中

オリエンテーション

- 到達目標** | 受講者が、本研修プログラムの全体像を描いて本日からの研修に臨むことができるようになる。
- 研修内容概要** | オリエンテーションでは、研修プログラム全体の目的・スケジュール・学びのポイントを把握し、この日から始まる研修プログラム受講のための足場を固めます。オンライン研修の受講方法や受講者最終発表に向けた準備などを理解して、不安なく研修受講を開始するための時間です。
- 教材** | 講師作成の資料を配布する

田中

イントロダクション

- 到達目標** | 受講者が、本研修プログラムの受講が中堅日本語教師にとってどのような意義を持つかを理解し、中堅日本語教師に求められる専門知識・キャリア教育能力・コミュニケーション能力・問題発見解決能力という4つの観点から学びを深めることができるようになる。
- 研修内容概要** | 私たち日本語教師が留学生に対してどのような教育をしてどのような人材を育成したいのかを考えると、これからの日本語教育ではキャリア教育という視点が重要であることに気がつきます。では、日本語教師はキャリア教育にどのように向かい合えばいいのでしょうか？研修では、まず日本語学習者自身がキャリアを考える力を身につける重要性を理解し、そのために日本語教師に求められるキャリアを捉える広い視野を身につけます。そのうえで、中堅日本語教師が留学生のキャリア教育を推進するときに求められる役割を、専門知識・同僚とのコミュニケーション・問題の発見と解決といった観点から描きます。
- 教材** | 講師作成の資料を配布する

キャリア支援の基礎

到達目標 | 受講者が、文部科学省の掲げる「キャリア教育」の意図するところを理解し、そのうえで文部科学省が唱える「社会の中での自分の役割」と「自分らしい生き方」の観点から、日本語学習者のキャリア形成の支援ができるようになる。

研修内容概要 | キャリア教育に関する文部科学省の定義を切り口に、ドナルド E. スーパーのキャリア発達理論から、「ライフ・ロール」や「ライフ・キャリア・レインボー」「自己概念」を取り上げて紹介いたします。キャリアとは何か、キャリア発達とは何か、さらにキャリア教育とは何かについての理解を深めます。そのうえで、キャリアに関する個人ワークとグループシェアを通じて、受講者のみなさま自身のこれまでのキャリアについて振り返っていただき、今後のキャリア形成について考えていただきます。これらの受講経験を通じて、中堅日本語教師として日本語学習者のキャリア形成をどのように支援していけばよいのかを学んでいきます。

教材 | 講師作成の資料を使用する。

コーパスを活用した日本語の分析

到達目標 | 受講者がコーパスを理解し、日本語教育を行う際に、日本語学習者が職業人／家庭人として、不自由のない生活を日本で営むために必要な情報を見つけ出すことができるようになる。

研修内容概要 | 日本語学習者の中には、日本での就職だけでなく、将来的に日本で配偶者を得て、子供を育てることを考える人も珍しくありません。彼らの職業人だけではなく、家庭人としてのキャリアも、日本語教育として無視してよいものではないでしょう。「職場・幼稚園・学校」といった言葉を含む『合本 女性のことば・男性のことば(職場編)』『幼稚園の配布文書コーパス』『学校お便りコーパス』など、様々なコーパスが作成されています。これらのコーパス処理に適したツールとその利用法を紹介すると同時に、コーパス利用の際の注意点についても、理解できます。以上のような研修を通して、コーパスからどのような知見が得られるのか、これらの成果を日本語教師がどう利用できるのか、現在・未来の職業人・家庭人としての日本語学習者にどう還元できるのか、理解できます。

教材 | 講師作成の資料を使用する

小林

コミュニケーション能力

到達目標 | 組織としての共通ゴールへ向かう為に必要なコミュニケーションとは何か、その問題点を明確に定義し、受講者が各個人における改善点を認識し、自分自身でコミュニケーション能力を自己点検し向上することができるようになることを目標とする。

研修内容概要 | 教育の質の向上は教師個人の努力によってだけでは達成されません。学校全体のマネジメント、強靱な組織作り・チーム作りが必要であり、その為に必須となるスキルがコミュニケーション能力です。コミュニケーションという観点からリーダーシップの本質は何かを理解します。また、適切なマネジメントの為に、習得すべきコミュニケーションの基本と必要なマインドセットを学びます。研修は、知識の提供に加えて、体験型のワークを取り入れ受講者それぞれが自身のコミュニケーション上の課題に気づけるように設計されています。中堅日本語教師として、リーダーに必要なコミュニケーションスキルとは何か、またそれをどのように身に付けるかについて深く理解する研修です。

教材 | 講師作成の資料を配布する

小林

問題発見解決能力

到達目標 | 「問題」を発見し解決するための基本的なフレームワークを習得します。個人的な問題だけでなく、チームや所属する組織（学校）においてのより大きな問題も含め、対処療法的なアプローチではなくより本質的に、構造的に「問題」を認識（発見）し、解決するための手法を使えるようになることを目標とします。

研修内容概要 | 対処療法ではなく本質的な問題解決をできるためのスキルを身に付けるための研修です。目の前で起こっている「現象」や「症状」と「根本的な問題」を分離し、構造的な問題解決の手法を例題や演習を通して学んで行きます。問題解決のファーストステップは、まずは「問題」の定義つまり「問題発見」が必要で、そのための基本的なアプローチを学び

ます。その上で、どんな「問題」がきても問題解決を自身で立案・遂行できるようなフレームワークを学びます。日本語教師として、日常的に対峙する問題のみなならず、チーム・組織として解決しなければならない本質的な問題は何かを深く思考し発見し解決するための具体的な手法を学びます。

教材 |

講師作成の資料を配布する

ビジネス日本語能力の評価と測定

キーワード | ビジネス日本語、テスト、評価、日本語大規模試験

研修内容概要 | 日本での就職を目指す日本語学習者に対し、日本語教師はどのような授業を提供できるでしょうか。ここでは「ビジネス日本語」のクラス授業を想定し、授業の目標と内容、さらには評価方法について事例を紹介しながら議論します。また、ビジネス日本語能力を測定する大規模試験「BJT ビジネス日本語能力テスト」について、その内容を紹介し、普段の授業への取り入れ方や利用の仕方についても考えたいと思います。

Q1 日本での就職を目指す外国人留学生には、どのような能力が求められるか？

Q2 ビジネス日本語能力を育成するための授業はどのような内容が考えられるか？

Q3 ビジネス日本語能力を育成するための授業では、どのような評価・測定方法が考えられるか？

Q4 今後ビジネス日本語能力を測定する大規模試験をどのように利用していくか？

ゴール | 受講者が、日本での就職を目指す日本語学習者へのビジネス日本語授業の設計や評価方法を見直すことができるようになる。

ビジネス日本語能力の評価と測定

到達目標 |

- ・ビジネス日本語能力における評価観点について意識が深まること
- ・テスト作成の際に留意すべき点を受講者間で共有し、自身の機関で生かせること

研修内容概要 | 「ビジネス日本語」の授業で目指すのは、学習者のどのような姿でしょうか。その“目指す姿”と授業シラバス、評価方法は合致していますか。まずはご自身のこれまでの授業を振り返りながら、受講者同士で考えを共有し、評価に対する意識を深めていきたいと思います。また、ビジネス日本語の授業で実施した実際のテスト問題をひとつひとつ分析していくことで、学習者のビジネス日本語能力の測定方法について考えていきます。ご所属の機関においてテスト作成をする際、受講者にリーダーシップを発揮していただけるようになることを目指します。

教材 | PPT 講義資料、実際のテスト問題

朝比奈 岳哉

外国人人材を受け入れている企業の声

到達目標 | 受講者が日本企業の求めている外国人人材像を知り、日本語学習者に対してどのようなキャリア教育を提供していくべきかを考えることができるようになる。

研修内容概要 | 現在 5 割弱の日本企業が外国人の採用・活用を検討していると言われていますが、企業側からはどのような理由で、どのような人材が求められているのでしょうか。従来のビジネス日本語や、ビジネスマナーに不十分な点や課題はないのでしょうか。企業の生の声を検討することで、日本での就職を目指す留学生たちにどのような教育を提供していくべきかを議論します。

教材 | 講師作成の資料を配布する

井上・田中

学びの共有ゼミ

到達目標 | 各研修で得た自己の学びをアウトプットし、他の受講者と共有することでより自身の学びを深めることができる。

研修内容概要 | 学びの共有ゼミは、研修各日の最終コマに設定しています。この時間は新たな知識をインプットする場ではなく、その日の研修から得た「学び」や「気づき」を他の受講者と共有することで自身の学びを深める場です。少人数で議論をしながら、じっくり研修を振り返りましょう。

教材 | なし

田中・井上

受講者最終発表およびその準備ゼミ

到達目標 | 研修で学んだ知識を教育現場にどのように還元するかを、具体的な相手（校長や出入国在留管理庁）への提案という形でまとめることができる。
また、最終発表の準備をグループで行うことで、チームビルディングの実験を体験することができる。

研修内容概要 | 受講者最終発表では、研修最終日にグループで教育現場の問題発見と解決方法の提案を行います。キャリア教育の観点からテーマを設定して、具体的な相手（校長や出入国在留管理庁）に何か提案をするということをイメージして、プレゼンテーションを実施します。

最終発表のための準備として、3回の準備ゼミを行います。準備ゼミでは、問題を発見し解決するためのフレームワークにそってグループで作業を進め、研修で学んだ専門知識を現場に還元する方法を検討します。また、準備ゼミでのグループワークでは、他の受講者とのコミュニケーションをとってチームビルディングを体験します。

教材 | なし

日本語教育における ICT の活用

到達目標 | 日本でのキャリアを歩む日本語学習者にとって有益な ICT の利用方法を検討し、クラスへの導入や学習者への紹介ができるようになる。

研修内容概要 | 日本語学習者がスマートフォンでオンライン授業を受講する姿も日常の光景となりましたが、彼らは日本語学習で ICT (Information and Communication Technology) を有効に使っているのでしょうか。また、日本語教師は教室内外での学習目標を達成するためにどのような ICT を活用できるでしょうか。本研修では日本で職業人を目指す学習者自身やそれを支援する教員が学習者のニーズや特性に合わせて、これらを効果的に用いる方法について検討します。まず、教育に活用されている ICT にはどのようなものがあるかを整理することから始め、日本語教師が授業内外でどのように ICT を使うべきか、また、その後日本でのキャリアを歩む日本語学習者の学びを ICT でどう支援できるかについて議論することで、ICT を活用した学習設計の基本的知識を身につけます。

教材 | 講師作成の資料を使用する

日本語教育プログラムデザイン1

講師	柳田憲昭
到達目標	法務省告示日本語教育機関における中堅教師に必要な学校運営に関する経営的知識と上席へのプレゼンに関するスキルを獲得する
研修内容概要	国内の法務省告示日本語教育機関に焦点をあて、中堅教師に必要な学校運営に関する知識を知り、分析力や思考力、さらには交渉能力を身に着ける。教育的視点だけではなく経営的な視点からの知識や分析力が含まれる。中堅教師には新任教師等のマネジメントが必要であり、そこから出た要望を経営者や校長といった上席へプレゼンや交渉すると能力が必要である。現状の法務省告示日本語教育機関において課題となっている点をケーススタディとして用い、参加者が自身で考え、それぞれの考えを共有する。今回のプログラムから教育と経営に関するバランス感覚を養成する。今回得たスキルを応用し自身のフィールドに置き換え、今後の職務を円滑に遂行するために活用できるようにする。
教材	講師作成の資料を配布する

松崎

日本語教育プログラムデザイン 2

- 到達目標** | 受講者が、日本での就職を目指す学習者の発音を適切に評価し、発音指導法を導入・改善することができるようになる。
- 研修内容概要** | 面接、プレゼン、商取引などにおいて、発音は、相手に丁寧さや良い印象を伝える重要な要素です。現代は、サービス業・小売業のみならず、ビジネス高度人材や医療現場等、様々な領域で外国人が活躍する時代であり、対人コミュニケーション能力には、正確な意思疎通とともに、「失礼にならない話し方」も必要とされます。日本での就職を目指す日本語学習者は、どんな発音を身につければ良いのでしょうか？ まず、「どのような発音が高い評価を受け、どのような発音が低い評価を受けるのか」について問題を発見するところから始めます。そして、その解決のために教師は、どのような点に気を付けて指導を行う必要があるのか、さらに、日本語学習者の母語と発音教育との関係はどのように捉えたらよいのか、を中心に、中堅日本語教師に求められる専門知識を身につけます。
- 教材** | 講師作成の資料を使用する

井上

日本語教育プログラムデザイン 3

到達目標 | 留学生の社会参画を促すサービス・ラーニングについて知る。
サービス・ラーニングの実践事例から、プログラムの構築・実践・評価の観点について考え、広い視点で日本語教育を捉えることができる。

研修内容概要 | 本研修では、留学生の社会参画を促すサービス・ラーニングの実践事例を取り上げ、プログラムの構築・実践・評価の観点について考えます。
サービス・ラーニングとは、地域社会における社会貢献活動と学習を結びつけた教育方法です。担当教師には、多方面との調整をしながら留学生が地域社会に参画する仕組みづくりと、社会貢献活動と学習を結ぶ仕掛けづくり、双方の力が求められます。「中堅日本語教師に求められる専門知識」としてサービス・ラーニングに対する理解を深め、広い視点から日本語教育について議論します。

教材 | 資料を配布する

日本語教育施策・外国人施策

到達目標 | 現在議論されている日本語教育施策・外国人施策の変化を理解し、教師としての将来を見据えた準備を始めたり、日本で今後生活していく日本語学習者に対し、この面から適切な助言やサポートができることを目指します。

研修内容概要 | 2019 年成立の日本語教育推進法を受け、2020 年 6 月には日本語教育の基本方針が閣議決定されました。現在、国内では、このように日本語教育の施策面においてきわめて重大な局面を迎えています。例えば、日本語教育の基本方針が示す 5 年間の計画は、今後の日本語教育のどういう現場に、何をもたらすのでしょうか。また、昨年新設された特定技能制度は、日本語学習者の動向やキャリアにどのようなインパクトを与えるのでしょうか。日本語教師として、私たちは現在進行形で変化するこうした事態を、どのように知り、理解し、対応していけばよいのでしょうか。研修では、現在進められている「日本語教育の標準」の議論も含めて、情報を整理し、これからの日本語教師に必要な日本語教育施策・外国人施策の基本的知識を確認します。その上で、日本での就職を目指す日本語学習者に対して、教師としてどのような備えを促したらいいのか検討します。

教材 | 講師作成の資料を用いる。また参照用の資料を配布する。